第125号
TOKYO UNIVERSITY OF AGRICULTURE ALUMNI ASSOCIATION NEWS
東京農業大学 校友会ニュース

［発行］
東京農業大学校友会
〒156-0054
東京都世田谷区桜丘3丁目9-31
電話 03-3429-1983
FAX 03-3427-2271
［編集発行人］
校友会会長　三好吉清

全国支部長会議

「人物を畑に還す」の心を入試制度に継承

平成30年度全国支部長会議が2月22日、世田谷キャンパス・アカデミアセンターの横井講堂で行われた。会議には全国の支部長ら70人が出席。来賓として学校法人東京農業大学の大澤貫寿理事長、東京農業大学の髙野克己学長があいさつした。五つのブロック会議の結果が報告され、全体討議では母校の建学の精神「人物を畑に還す」に基づいた入試制度や「箱根駅伝への道ｏｎｅコイン募金」などについて、活発な意見交換が行われた。大学側は金子忠一副学長、校友会本部は小野甲二常任理事・事務局長が回答した。

ブロックの意見確認

同会議の議長には、広島県支部の竹重博樹支部長（昭44農）が選任された。30年度ブロック会議の結果報告はブロックを代表して次の5氏が行った。

▽北海道・東北ブロック＝渡邉康夫氏（宮城県支部長、昭39工）▽関東・甲信越ブロック＝清水敏夫氏（群馬県支部幹事長、昭46林）▽北陸・東海・近畿ブロック＝清水重郎氏（滋賀県支部長、昭47工）▽中国・四国ブロック＝堀江康輔氏（島根県支部長、昭43林）▽九州ブロック＝阿曽田清氏（熊本県支部長、昭44工）。

地域後継者の推薦入試については、地域のリーダーや地域社会の発展に貢献する後継者を育てるための入試制度の充実を図るため、自己推薦型入試など複数の制度での対応を検討しているとし、次年度から選抜の方法をホームページなどで公開するとの説明が大学からあった。

校友会に対しては「箱根駅伝への道ｏｎｅコイン募金」に関して、その使途の明確化や、箱根出場への青写真などを問う意見が出された。

使途について校友会本部は「校友から募金された貴重な資金である。陸上競技部男子長距離の強化費に限定している」とした。また、箱根駅伝出場の目標を何年に置くのかといった計画は「学生スポーツの性格上、非常に難しい」としたが「優れた学生を何人確保できるかにかかっている」と強調した。

清水敏夫支部幹事長

渡邉康夫支部長

竹重博樹議長

阿曽田清支部長

堀江康輔支部長

清水重郎支部長

ｏｎｅコイン募金名簿掲載
「箱根への道ｏｎｅコイン募金」の募金者のご芳名は8・9面に掲載しています。

主催者あいさつ（要旨）

東京農業大学校友会会長　三好　吉清

支部長各位には、日頃より校友会活動にご支援とご協力を賜り、感謝申し上げます。

この全国支部長会議は、秋のブロック会議で討議した大学ならびに校友会への要望などに対して組織的な検討を行い、東京農業大学の発展に資するための重要な会議であります。校友会活動の目的を共有され、有意義な会議にしていただきたいと願っています。

昨年の全国支部長会議以降の経過について振り返ってみます。

10月の箱根駅伝予選会では、残念な結果に終わり、今年も箱根に出場することができませんでしたが、各支部の校友から寄せられた「ｏｎｅコイン募金」については、12月の本部理事会の席上で陸上競技部の矢口部長と小指監督にその一部を寄贈いたしました。

なお、支部長各位のご意向を踏まえ、大学の発展方向の中で、校友会も新たな対応に取り組んでいく必要があるものと考えております。ご要望の趣旨については、これからも鋭意検討し、できる限り応えてまいりたいと思います。

代読　副会長　外園　惘

外園惘副会長

と、農大スポーツの強化、とりわけ箱根駅伝の強化については、中国・四国ブロックからの意見を踏まえた本部提案として、「箱根駅伝ｏｎｅコイン募金」を創設しました。支部長会議に諮り、申し合わせという形で組織合意を得て、6月の通常総会でご承認いただき、募金活動を開始しました。

来賓祝辞（要旨）

学校法人東京農業大学理事長　大澤　貫寿

大学、高等教育を取り巻く状況について話させていただきます。

文部科学省は、東京都23区内にある大学の定員増について2019年度以降は認めないなど、規制を非常に厳しくしています。

私立大学は約590校あり、その全ての学生の納付金は3兆4000億円。私立大学系への補助金は3500億円といわれており、学生納付金の1割。私立大学の実際の運営は、学生納付金が圧倒的で、国内の経済・社会状況が大きく影響します。特に地方の進学者は都市部よりも厳しく、これからの大学の学生確保の在り方も、地方から大学に来ていただくことが課題の一つです。

大澤貫寿理事長

8000人以上の大規模大学は収支で9割以上が黒字ですが、地方の中・小規模大学は5割近くが赤字。そういう中で今、大規模大学の定員管理を厳しくして、地方の中・小規模大学の定員充足率を上げろという政策がとられています。首都圏の大学は危機感を持っていて、東京農大も学部の改組、学科の定員見直しを積極的に進めながら、社会状況に適応した大学組織にしていかなければなりません。

大学は18歳人口がターゲットで、100万人を割って18年後は80数万人に。そこまでにしっかりと手を打たないといけません。そこで初等教育の必要性を感じて学園化という方向にかじを切りました。その一環として小学校を設置しました。これからも皆さまのご支援をお願いします。

東京農業大学学長　髙野　克己

入試の状況については、一般入試A日程とセンター試験利用入試前期日程での受験生の数は昨年比95%でした。社会的に人手不足・売り手市場ということで、苦労しないで大学を卒業したいとの風潮が広がり、理系離れが進んでいる中、農大は予想と同程度の減少率に食い止めることができました。

世田谷の新研究棟は11月に完成します。内装工事の後、1月から世田谷の全学科の研究室がそこに移動します。現在、その計画を立てているところで、来年4月から供用開始となります。

髙野克己学長

また、厚木キャンパスでは、新学科をつくった関係で、今ある研究棟を改装して研究室を増やします。そこにあった学生実験室を、現在建設している新学生実験・実習棟に収容します。これは後期からの供用開始です。

就職状況は非常に良く、就職率は昨年より多少上がっています。みんなが入りたい会社というランキングにあがっているような会社に入る学生が多くなってきました。これからは学生に社会のニーズ・変化に対応できる能力を身に付けさせることが重要であると考えています。皆さまには就職活動などでお世話になりますが、よろしくお願いします。

スポーツ関係では、母校愛を育てる、大学への求心力という点で大切だと認識しています。運動部寮の整備やスポーツ振興をつかさどる部署の設置などを考えています。

東京農大 稲花（とうか）小が開校

希望を胸に72児童 体験型の学習重視

東京農業大学の稲花小学校1期生の入学式が4月6日に行われた。入学した1年生72人は希望に胸を膨らませて勉学に励んでいる。これに先立ち平成30年12月22日、開校記念式典が同校体育館で開かれた。

同校は、農大が設置する初の小学校で、東京23区内では59年ぶりの私立小学校の新設となる。

同式典には世田谷区の保坂展人区長、東京私立初等学校協会の小泉清裕会長ら教育関係者の他、学校法人東京農業大学の大澤貫寿理事長ら大学関係者約200人が出席し、開校を祝った。

夏秋啓子校長は「稲花小学校の教育理念は『冒険心の育成』。冒険や挑戦をするため、科学的、実践的に学べる人間を育てていきたい」とあいさつ。農大一高・中等部の生徒が、同校の校歌を披露した。校歌の作詞は谷川俊太郎氏、作曲は谷川賢作氏で、両氏は式典にも出席した。

同校は農大世田谷キャンパスに隣接し、定員は1学年72人の男女共学。校舎は地上4階、地下1階。校名の「稲花」は東京農業大学の花でもあり、子どもたちが、1本の穂に200粒近い米を実らせる稲のように、さまざまな力と、可能性を育んでいくことができたらとの思いが込められている。

カリキュラムは体験型学習を重視。「食と農」の博物館や厚木キャンパス、北海道オホーツクキャンパスなど、農大の施設とも連携した学習を行う。

開校した稲花小学校

農業経済80周年記念事業を開催

10月に世田谷

食料環境経済学科では、1939（昭和14）年4月の農業経済学科開設以来、本年で80周年を迎え、左記の通り記念事業を開催しますので、ご参加を。

日時＝令和元年10月14日（月）体育の日
午後（時間未定）
会場＝東京農業大学世田谷キャンパス
農大アカデミアセンター横井講堂
内容＝記念式典、記念講演、記念祝賀会

網走市に開設し30年を迎え開催した記念式典

オホーツクキャンパス 30周年記念式典

地域に根差し人材育成

東京農業大学は平成30年12月23日、オホーツク・文化交流センター（網走市）で生物産業学部開学30周年記念式典を開いた。網走市の水谷洋一市長、極東連邦大学（ロシア）のニキータ・アニシモフ学長ら来賓の他、農大関係者ら約200人が参加し、同学部の30周年を祝った。

吉田穂積学部長の開式あいさつの後、農大の髙野克己学長は「北海道オホーツクキャンパスが世界的視点に立って、次の時代のために大きく発展し続けていただきたい」と期待を寄せた。

水谷市長は、農大は地域に根差した網走市にとってなくてはならない存在とし、「一層連携を深め、町づくり地域づくりのさまざまな場面でお力添えを」と述べた。アニシモフ学長は、29年8月に締結した農大と極東連邦大学との協定について「さまざまな分野において実習・研究の可能性が出てくる基盤になる。東京農業大学が蓄積してきた経験があるからこそ、偉大な可能性が満ちている」と期待した。

網走市と東京農業大学生物産業学部協力会に感謝状が贈呈された後、北海道二十一世紀総合研究所の富田学主任研究員が「オホーツクキャンパスが地域経済に与える効果」と題して、消費支出に伴う年間の経済効果が32億円、地域の生産額拡大に年間192億円寄与しているとの調査結果を報告した。

記念式典会場には30年の歴史を振り返るパネルが展示された。祝賀会やイベントも同日に開催、地元市民とともに30周年を祝った。

生物産業学部は平成元年4月の開設以来、地域・国際社会に貢献できる人材を、大学院修了者も含め、これまでに1万人以上国内外に送り出している。

将来への希望を胸に

厳かに学位記授与式

平成30年度学位記授与式が3キャンパスでそれぞれ挙行された。3月17日に北海道オホーツクキャンパス体育館で大学院生物産業学研究科・生物産業学部、同20日に世田谷キャンパス桜丘アリーナで大学院農学研究科・応用生物科学部・地域環境科学部・国際食料情報学部、21日に厚木キャンパス体育館で大学院農学研究科・農学部の卒業生が学位記を贈られた。

式では学位記授与に続き、成績優秀特別賞・卒業論文優秀賞など優れた成績を収めた学生らの表彰があり、代表者には賞状と記念品が贈られた。

髙野学長が「本学でしか学べない価値ある教育を実学主義で学び、実績を自身のものとされたことでしょう。社会で躍動することにより、全国・世界のあらゆる分野で東京農大ブランドを知らしめてください」と激励。卒業生を代表して生物生産学科の宇都宮咲耶さん、応用生物科学部バイオサイエンス学科の宇津智晴さん、農学科の府榮野亜実さんが答辞を述べた。

多数の父母や後輩がキャンパスを訪れ、3キャンパス合計3007人の卒業生が、仲間や恩師との語らいの時間を過ごし、将来への希望を胸に巣立っていった。

社会への巣立ちの時を迎えた卒業生（世田谷キャンパスで）

学位記を授与される卒業生（厚木キャンパスで）

後輩からお祝いの胴上げ（オホーツクキャンパスで）

華やかに入学式

夢に向かって挑戦

桜咲く4月2日、平成31年度入学式が世田谷キャンパス桜丘アリーナで、大学院農学研究科・農学部・応用生物科学部・生命科学部・地域環境科学部・国際食料情報学部の合同で挙行され、4月4日にはオホーツクキャンパス体育館で大学院生物産業学研究科・生物産業学部の入学式が挙行された。

式典には、海外協定校のカンボジア王立農業大学のヌオ・ブンタン学長らが出席し、祝辞を述べた。

髙野学長が「自分の限界を超えて、知識の限界を超えて、どのような未来像を描き努力していくのか。東京農大生としてひたむきに〝生きる〟を追求していくことで夢を実現させてほしい」と式辞を述べた。新入生を代表して応用生物科学部食品安全健康学科の矢野恵美さんと北方圏農学科の山本遥風さんが宣誓。山本さんは「夢に向かって新しいことに挑戦し、実りある学生生活を送る」と決意を新たにしていた。

新入生たちは新しく始まる生活に期待し、胸を躍らせていた。両キャンパスでは、先輩からの歓迎を受ける新入生の笑顔が随所で見られた。今年度の入学生は3キャンパス合計3491人だった。

大学院1研究科と5学部合同の入学式（世田谷キャンパスで）

満開の桜の下で希望に燃える新入生（世田谷キャンパスで）

先輩から歓迎を受ける新入生（オホーツクキャンパスで）

母校だより

人事異動

（順不同、敬称略）

【平成31年4月1日】

▼任用

東京農業大学副学長（農芸化学科教授）　山本　祐司

法人本部長事務取扱（法人常務理事）　志和地弘信

▼教授採用

農学部農学科　岩波　徹

応用生物科学部栄養科学科　髙橋　公咲

応用生物科学部栄養科学科　福山　直人

生物産業学部食香粧化学科　野島　聡

教職・学術情報課程　木村梨花子

▼教授昇格

農学部動物科学科　鳥居　恭司

農学部生物資源開発学科　石川　忠

応用生物科学部農芸化学科　横田　健治

応用生物科学部農芸化学科　井上　順

地域環境科学部　江上　親宏

地域環境科学部生産環境工学科　川名　太

地域環境科学部造園科学科　國井　洋一

▼定年退職

農学部農学科教授　根岸　寛光

農学部デザイン農学科教授　森田　茂紀

応用生物科学部醸造科学科教授　舘　博

応用生物科学部醸造科学科教授　鈴木健一朗

応用生物科学部栄養科学科教授　田中　越郎

生命科学部バイオサイエンス学科教授　河野　友宏

生命科学部分子生命化学科教授　額田　恭郎

地域環境科学部造園科学科教授　濱野　周泰

国際食料情報学部食料環境経済学科教授　立岩　壽一

国際食料情報学部国際食農科学科教授　友田　清彦

生物産業学部食香粧化学科教授　戸枝　一喜

生物産業学部自然資源経営学科教授　菊地　哲夫

学術情報課程教授　黒澤　弥悦

7月に完成予定

厚木に実験・実習の拠点

厚木キャンパス実験・実習棟完成予想図

厚木キャンパス内に建設が進んでいる実験・実習棟が7月に完成し、9月から供用を開始する予定。

学部・学科の改組で農学部各学科の研究室体制が再構築され、研究室拡充のため、各種学生実験室を研究棟外に再整備するとともに、老朽化した食品加工実習施設を新規に整備し、完成する実験・実習棟に収容する。

1階は肉・乳・農産物の加工実習を行う食品加工実習室、2階は生物系実験室、3階は化学系実験室。地上3階建て、建築面積は879平方㍍、延べ床面積2301・33平方㍍。

厚木キャンパスは、建学の精神「人物を畑に還す」、教育の理念「実学主義」を具現化し、座学と実験・実習・演習をキャンパスや農学部付属施設で実践することをコンセプトとしている。新カリキュラムに基づき、学生実験と作物栽培などの農業実習だけでなく、食品加工実習を積極的に実施する実習プログラムを充実させる。

これぞ革新的技術

総合研究所が成果報告

社会的貢献目指す

東京農業大学総合研究所（山本祐司所長）は平成30年12月17日、東京都千代田区内で革新的技術研究成果報告会を開いた。食品会社や商社など約120人が参加した。今回で2回目。

東京農大では実学主義の下、総合研究所が中心となって学内にさまざまな研究プロジェクトを立ち上げ、本学の「特色・強み」を具体的に引き出した研究を推進することで、将来的な社会貢献を目指している。

この報告会は、その研究成果を公開し、「革新的技術研究」の一端を一般の方にも知ってもらう機会として開いている。

「学部長主導型研究プロジェクト」では、農芸化学科の辻井良政教授と齋藤彰宏助教が、現代人の栄養代謝を改善する新しい「栄養強化米」の開発と実用化について報告。分子生命化学科の田口精一教授と分子微生物学科の田中尚人教授は、バイオプラスチックの合成プロセスから環境分解までについて報告した。

「農研機構とのマッチングファンド型共同研究プロジェクト」では、北方圏農学科の吉田穂積教授が北海道オホーツク地域に新たに侵入した害虫・ジャガイモシロシストセンチュウについて報告。

若手研究者を支援する「大学戦略研究プロジェクト」では、バイオサイエンス学科の渡辺智准教授が、東京農大における革新的シアノバクテリア研究について発表した。

栄養強化米の開発と実用化について報告する辻井教授

㈱農大サポート発進

平成30年7月、学校法人東京農業大学が100%出資した事業会社、株式会社農大サポートが設立された。日本の私立大学は、昨今の大学進学者数の減少により、収入源を多様化し大学経営の安定化を迫られている。しかし、学校法人が収益事業を行うことには制約があるため、事業法人を設立する学校法人が増えている。

農大サポートの設立もこの流れに沿ったもので、平成30年10月1日から事業をスタートした。法人が所有するさまざまな知財や人材などを活用した事業展開を図り、法人財政に寄与するとともに教育研究活動のさらなる充実に貢献するとしている。

主な事業は東京農大の生涯学習事業であるオープンカレッジ事業、訪問看護を主として実践する東京情報大学訪問看護ステーションの運営、学生への賃貸不動産紹介、農大グッズ販売、オフィス用品の調達、東京農大が初めて分離に成功した花酵母（こうぼ）を使った新しい日本酒を造るプロジェクトなど多岐にわたる。

事務所は世田谷オフィス、東京情報大学内にある訪問看護ステーション、および4月に開設した世田谷代田オフィスの3か所で、要員は12人。

教育研究に貢献

先駆者の功績を確認

進化研が近藤典生ワールド

講演をする湯浅理事長と在りし日の近藤先生

平成31年3月9日、東京農業大学「食と農」の博物館において、（一財）進化生物学研究所（以下、進化研）主催、生き物文化誌学会後援による講演会「近藤典生ワールド」が開かれた。

講演会には大澤貫寿理事長をはじめ髙野克己学長、夏秋啓子・新部昭夫両副学長、小川博農学部長ら農大関係者、進化研の湯浅浩史理事長や研究員、生き物文化誌学会の陽捷行会長、さらには近藤先生を生涯の師として慕われる秋篠宮親王殿下のご臨席を賜り、参加者は約50人と盛会であった。講演に先立ち、大澤理事長より心温まるあいさつがあった。

近藤先生が亡くなられてから、今年で22年。昭和23年に進化研の前身でもある育種学研究室を創設し、時代を先駆けた理念に基づく公園造り（シャボテン公園等）や重層的な生物生産に着目して多くの業績を世に残してこられた。

講演では、進化研に関係の深い生き物文化誌学会から小田忠信副会長、育種研時代のOB萩原俊彦氏（昭32農）、そして進化研の湯浅理事長の3人に、今一度その業績や人柄について熱く語っていただいた。講演後、秋篠宮殿下から貴重なお言葉を賜った。

涌井史郎氏が講演

ホームカミングデー

6月15日に世田谷で

令和元年度の「創立記念を祝う会並びに第19回東京農大ホームカミングデー」が6月15日（土）13時から、世田谷キャンパスの百周年記念講堂で開かれます。親子三代表彰、東京農大貢献賞表彰などがあります。特別記念講演は造園家で東京農業大学客員教授の涌井史郎氏（写真）です。

懇親会の他、来場者には記念品の配布もあります。奮ってご参加ください。詳細は同封のリーフレットをご覧ください。

定年を迎えた先生

根岸　寛光　教授

昭和54年に東京大学大学院農学系研究科農業生物学専門課程修士課程を修了、同年に農林水産省横浜植物防疫所業務部国際第一課および農蚕園芸局植物防疫課（併任）に採用。その後、九州農業試験場環境第一部病害第二研究室でイネなどの虫媒伝染性ウイルス病の研究にも取り組まれました。

昭和59年に東京農業大学農学部農学科の植物病理学研究室に有給副手として着任し、助手、講師、助教授、准教授を経て平成24年に教授になられました。その間、数多くの大学院生と学部生の指導、難関の農業環境微生物学などの講義はもちろん、平成5年に「日本産そうか病菌（Sphaceloma および Elsinoe 属菌）の比較研究」で博士号を取得されるとともに、本学大学院農学研究科農学専攻の専攻主任を務められました。

また、日本植物病理学会幹事長および評議員、政府の農業資材審議会委員、中央環境審議会委員も務められました。さらに、近年はご実家の福聚寺の住職、その上現役最後の年は（公社）緑の安全推進協会の会長も務められ、教育、研究、社会貢献と極めて多忙な35年間を過ごされました。

森田　茂紀　教授

昭和51年東京大学農学部を卒業、昭和56年東京大学大学院農学系研究科博士課程を単位取得退学、同年4月から東京大学農学部助手に就任。昭和58年に農学博士の学位を取得。平成8年から東京大学大学院農学生命科学研究科助教授を経て、平成14年東京大学大学院農学生命科学研究科付属農場教授に昇格、平成25年3月に同機関を退職され、同年4月から東京農業大学農学部農学科教授に就任されました。

専攻は作物学で、平成16年には日本作物学会会長に選出され学会発展に貢献されました。本学ではエネルギー作物エリアンサスの研究をなされ、多くの研究業績を上げられました。また毎年エネルギー関連の展示会に学生主体でブースを出展されるなど、学生指導にも尽力されました。退職後は、本学デザイン農学科嘱託教授として引き続き学生指導に当たっていただいています。

舘　博　教授

昭和54年東京農大院（農芸化学・博士前期）修了。同年本学醸造学科に副手として着任。その後、短大醸造科助手、講師、助教授を経て、平成14年同教授。短大閉学に伴い平成30年から応用生物科学部醸造科学科教授。博士（農芸化学）。この間、（学）東京農大評議員や短大部長を歴任。専門は醸造学で、特に麹（こうじ）菌ペプチダーゼ、醸造物由来のレジスタントプロテイン、醤油（しょうゆ）乳酸菌のヒスタミン生成抑制に造詣が深く、日本醸造協会技術賞などの学協会賞を受賞。

また、農友会社交ダンス研究部部長としての学生指導や学生ダンス競技団体の運営にもご尽力されました。

さらに、日本健康医学会など複数の学会の理事や評議員、あるいは醤油・みりん業界団体の理事など多数の要職を務めておられ、農大を定年退職後も引き続き各方面でのご活躍が期待されています。

鈴木　健一朗　教授

昭和52年東京大学農学部農芸化学科卒業、昭和57年同農学系研究科農芸化学専攻博士課程修了（農学博士）。専門の微生物分類学を生かし、理化学研究所生物基盤研究部（JCM）、（独）製品評価技術基盤機構バイオテクノロジーセンター（NBRC）で30年以上にわたり、微生物系統保存事業に従事してこられ、平成28年に東京農業大学応用生物科学部醸造科学科に教授として採用されました。細菌の細胞壁のアミノ酸、菌体脂肪酸などの菌体成分を用いた化学分類学を専門とし、放線菌や乳酸菌の分類体系の構築、新種の提案などを数多く発表し、微生物分類学を牽引する功績を挙げられました。醸造科学科では、醸造微生物学研究室に所属され、醸造に関わる微生物、特に乳酸菌について、生理学的特性を菌体成分の変化から研究し、学生の指導に当たっていただきました。

田中　越郎　教授

昭和29年1月に長崎市に生まれ、3歳から熊本市で育ちました。昭和55年に熊本大学医学部を卒業後、東京・秋葉原にある三井記念病院で内科の研修医。熊本に戻り熊本大学医学部の大学院で薬理学を専攻し、医学博士を取得後、ポスドク（博士後研究員）としてスウェーデンのカロリンスカ研究所に2年間留学。留学後、神奈川・伊勢原市の東海大学医学部の生理学教室に約15年在籍。平成15年4月から栄養科学科に教授と着任、健康増進センター長を13年間兼任し、平成28年4月から東京農業大学第一高等学校・中等部の校長を兼任中。平成20年応用生物科学部栄養科学科長（1期）、平成24年大学院農学研究科食品栄養学専攻主任（1期）を勤めました。

論文や書著も多く、特にヒトの生理学の教科書は、看護系の学生に人気が高く、日本中の看護学生の10人に1人は先生が書かれた教科書を使って勉強しています。平成30年は日本テレビの「世界一受けたい授業」にも出演。定年後も農大一高・中等部校長など、さまざまな分野でのご活躍が期待されます。

河野　友宏　教授

昭和51年東京農業大学農学部畜産学科卒業。昭和57年東京農業大学農学研究科農学専攻博士後期課程修了（農学博士）。昭和58年から東京農業大学総合研究所副手（有給）。昭和61年農林水産省畜産試験場でクローン研究に参加後、昭和63年講師、平成4年助教授に昇格。平成5年英国MRC実験発生学・奇形学研究所で卵子活性化機構の研究に従事し、帰国後はゲノムインプリンティング研究を展開されました。平成8年東京農業大学教授に昇格。平成13年から応用生物科学部（平成29年から生命科学部）バイオサイエンス学科に所属し、学部および大学院教育に尽力されました。哺乳類のエピゲノム研究分野で重要な成果を数多く挙げられ、国内外で高く評価されており、家畜繁殖学会島村賞、日本卵子学会理事長特別賞、文科省科学技術政策研究所「ナイスステップな研究者」などを受賞されました。

学会活動としては、Society of Reproduction and Fertility（英国）、日本繁殖生物学会、日本卵子学会の学会誌編集委員や日本繁殖生物学会、日本卵子学会の理事を歴任され、現在、日本卵子学会の理事長をされています。

額田　恭郎　教授

私は平成16年4月に本学に赴任し、所属は応用生物科学部醸造科学科です。醸造資源化学研究室の助教授として本学の教育・研究のスタートを切りました。

講義、研究指導の経験はありましたが、学部4年を中心とした体制は初めて。緊張していた矢先、運悪く講師の先生が入院してしまい、何も分からないまま学生諸氏に指示を出していたことを今でも覚えています。赴任後2、3日目のことです。

数年たって落ち着いた後は学科長、教職・学術情報過程主任などを拝命いたしました。この関係で校友会の皆さま、特に各地の農業高校の関係者の方々には大変お世話になっています。

平成28年からは新学科・新学部の立ち上げをお手伝いさせていただき、今年3月、新学科である分子生命化学科の一員として満期退職となりました。今後もお付き合いよろしくお願いします。

濱野　周泰　教授

昭和51年に本学農学部造園学科を卒業後、同年4月から農学部造園学科助手に就任されました。その後、講師、助（准）教授を経て平成20年に教授に昇格され、43年にわたり造園学研究と教育にまい進されました。特に、希少な研究分野である樹木学を地道に極めてこられました。樹木の分類については、知らない植物は無いと思われるほど造詣が深く、その眼力には敬服するばかりです。多くの出版物の他、東京駅近くの「大手町の森」に結集された英知をみることができます。

また、NPO法人花と緑のまち三鷹創造協会理事長、日本学術会議環境学委員会自然的歴史的緑地小委員会委員長、環境省特定外来生物検討委員、東京・国分寺市農業委員など、精力的に社会活動もされました。長きにわたる研究室の運営はもとより、学内ではゴルフ部長や体育連合会長なども歴任され、学生教育にも多分な力を注がれました。

立岩　壽一　教授

東京大学大学院農学研究科農業経済学専攻博士課程を修了し、愛媛大学法文学部を経て、平成4年に東京農業大学農学部農業経済学科に奉職しました。当時2号館4階にあった学科は、エレベーターもクーラーもありませんでした。その後、平成9年に大学からカリフォルニア大学バークレー校への留学機会をいただき、カリフォルニア稲作史が農大での研究の中心となりました。北カリフォルニアの大地で活躍した20世紀初頭の移民日本人による稲作経営調査は思い出多い研究となっています。

また、平成20年に「地域再生・活性化の担い手育成教育が」文科省「質の高い大学教育」に採択され、学生による山村での調査・実習・交流などを軸としたアクティブ・ラーニング形式の教育に没頭しました。楽しい有意義な教育・研究生活をありがとうございました。

友田　清彦　教授

43年間という長きにわたり、教員として本学でご活躍されてきました。昭和51年、本学農学部農業経済学科卒業後、ただちに同学科助手に採用、講師、助教授を経て、平成16年には、国際食料情報学部食料環境経済学科教授。昭和63年から1年間は、ドイツ連邦共和国ゲッティンゲン大学に依命留学。2度の学部学科再編に尽力し、とりわけ国際食農科学科の創設をリードしました。平成28年には国際食農科学科教授。図書館長、国際食料情報学部長、学校法人東京農業大学評議員・評議員会議長なども務めました。

研究活動では、明治前期の農政史・農学史を専攻し、明治期の最も優れた農業書と評価される『日本地産論』の著者であるマックス・フェスカに関する研究、さらに内務省勧業寮・勧農局期の勧農政策の研究から始まり、明治14年の大日本農会の成立に至る過程などについて、文献史学の方法で実証的に研究しました。本学の初代学長である横井時敬に関する著書も著しています。一方で学生の課外活動で農友会農村調査部部長、農友会硬式野球部部長などを務めました。

農業史の専門分野を背景とした幅広い食農分野に対する知識と、長年の研究への情熱やそこでの業績を踏まえて、農大生が育むべき教養や見識を示唆し、その素養を多分に備えた多くの卒業生を社会に輩出しました。

戸枝　一喜　教授

昭和57年東京農業大学大学院農学研究科博士後期課程農芸化学専攻修了（農学博士）。昭和60年3月まで京浜女子大学家政学部で非常勤講師を勤められました。その後、平成3年4月まで第一糖業株式会社、平成6年3月まで上野製薬株式会社に勤められ、同年4月からは秋田県総合食品研究所で素材開発担当チーフ主任研究員、上席研究員、同研究所管理室長を歴任されてきました。その間、農産廃棄物からの機能性素材の開発に従事し、米ぬかを原料としたGABA高含有素材の製品化に尽力されました。平成22年4月からは、東京農業大学生物産業学部食品香粧学科に教授として着任されました。ガラクトマンノオリゴ糖研究や薬用植物からの機能性成分の単離といった食香粧品の機能性素材に着目した教育・研究を展開され、多くの成果を挙げられました。

菊地　哲夫　教授

平成元年4月東京農業大学生物産業学部の開設とともに産業経営学科の専任講師として赴任されました。その後、助教授、教授と経歴を重ねてこられました。学科長を、平成26～29年度に2期にわたり務めました。

地域社会におけるさまざまな活動に中心的人材として活躍されました。ポート部の創設に関わり副顧問を平成4年まで務め、釣り同好会の顧問を現在まで務められております。

趣味の油絵は、四季の斜里岳などを描かれており、日曜大工では、本棚、机などを多数製作されています。温和で人あたりのよい性格から周囲の多くの方々を魅了しています。これからも北海道オホーツクのキャンパスにおいでいただき、われわれの羅針盤となっていただけることを祈念しています。

黒澤　弥悦　教授

昭和51年東京農業大学農学部畜産学科卒業。同大学家畜血清学研究所研究生を経て、研究助手として勤務しました。平成2年農学博士の学位を取得。同年郷里の岩手県奥州市で稲作で就農する傍ら、平成5年、同市の「牛の博物館」の建設準備室に嘱託研究員となり、平成7年には同館を開館させ、平成18年同博物館主任学芸員として勤務しました。平成22年には、東京農業大学教職・学術情報課程・同大学「食と農」の博物館教授として就任されました。

研究面では助手時代、アジア産イノシシの血液型研究に従事し、旧ソ連科学アカデミーの Tikhonov 博士の招待で大陸イノシシの研究、さらに博物館に勤務してからは牛の飼養文化論の調査に取り組みました。最近では広島大学大学院生にイノシシの遺伝学的研究の指導を行い、毎年、いくつかの学会で最優秀発表賞を受け、計6回の受賞につなげています。教育面では、学生や卒業生の博物館・動植物園への就職に力を注がれ、その就職率は全国トップを誇ります。また、農友会活動へもご尽力なさり、華道部部長も務めました。

地域に根付く

進む産官学の連携協定

群馬県富岡市

世界遺産核に町づくり

エクステンションセンター

東京農業大学は、平成26年12月に世界遺産・富岡製糸場のある群馬県富岡市と相互に協力し連携・交流を推進するために協定を締結した。長年、富岡市を研究フィールドとし、繭や桑に関する研究を行い、連携協定の橋渡し役となった農学部デザイン農学科の長島孝行教授は、富岡製糸場およびその周辺遺産群が世界遺産に登録されたのを受けて、富岡市の世界遺産登録に伴うレガシーを作り上げることが重要であるとさまざまな活動を展開している。

富岡製糸場は、国内のみならず海外からも多くの観光客を呼び寄せている。長島教授は言う。「富岡製糸場は、最後の農の世界遺産といわれている。ところが、周辺に農の風景が乏しい。訪れた人たちに農文化の風景やイメージを感じさせる必要がある」。また、「産業遺産としての価値は、蚕糸業のシステムが生き続けていることにある。

桑を使用した和菓子を紹介する長島教授（30年3月11日、富岡市で開催した農大マルシェで）

農大生によるシルク美容液の作り方教室（同上）

養蚕農家が誇りをもってカイコの生育に励み、桑園が広がっていることが不可欠だろう」と話す。

絹文化を中核としつつも、バリエーションを持たせた地域づくりが重要と考える長島教授は、富岡市における特産品づくりのコンセプトとして「作ってよし、買ってよし、地域社会もよし」という「三方よし」の精神で住民合意を得て、地域社会に還元される特産品開発を行っている。

今までに開発した商品は、地域の桑園（富岡市民桑園）で作った桑葉を入れたアイスクリーム、パスタ、ケーキなど。その他にも、鉄分、カルシウム、ビタミンCが豊富な桑の実を使ったオリジナルドリンク、手作りシルク石鹸（せっけん）、くず繭やくず糸を溶解して用いた石鹸などがある。

富岡産桑を軸に商品にバリエーションを持たせることで、消費者の購入意欲をかき立てる狙いだ。また、海外からの観光客にも日本の良さをアピールするという効果が期待されている。

30年3月11日、富岡駅前で農大マルシェを開催。院生、学生に加え、地元富岡実業高校の生徒や地元企業2社が市内3会場（駅前広場、富岡公民館、城町通ポケットパーク）の各ブースに分かれ、開発した商品であるシルク化粧品、シルク石鹸、シルクサプリメント、桑カステラ、桑入りピザなど富岡らしい新製品の説明を行った。また、東京農大の学生による体験コーナーでは、シルク美容液の作り方教室を開催した。近年の研究により、その機能性が明らかになってきた「シルクフィプロイン」と「食用桑」を軸に、富岡市民に向け、新しい富岡の魅力をPRし、新しい養蚕業（第2次養蚕業）の取り組みを広く周知することができた。

今後さらに、東京農大のノウハウが、製糸や絹への興味を深め、地域活性化に生かされること、富岡製糸場の魅力・価値の維持・充実に活用されていくことが期待されている。

福島県浪江町

手を携え農業の〝新興〟

自然資源経営学科 准教授 菅原 優

東京農業大学は、平成31年1月31日、福島県浪江町と「農業に関する包括連携協定」を締結した。本協定の活動内容は①農業の担い手および農業経営者育成に関する事項②農業の早期復旧・復興・〝新興〟に関わる事項③農業を通じた地域〝新興〟に関わる事項④その他農業に関し必要な事項が主な柱。一般的な「振興」ではなく新たなチャレンジの意味を込め〝新興〟としている。

これに先立ち、本学の総合研究所は、東日本大震災および原子力災害によって失われた浜通り地域などの産業を回復するために当該地域の新たな産業基盤の構築を目指す国家プロジェクト「大学等の復興知を活用した福島イノベーション・コースト構想促進事業」に採択され、「浪江町における農業〝新興〟に向けた取り組み～担い手育成に向けて～」に取り組んでいる。

浪江町の農業の課題解決などを話し合ったワークショップ

新規参入就農した農業者の花き栽培を見学する農大生ら

1年目の主な活動としては、浪江町での稲刈り体験や現地視察、ワークショップの実施による営農再開に向けた課題の把握である。本学学生延べ54人が地元の農業者との交流・対話を行い、農業の営農再開・復興に向けた課題の共有と新たな〝新興〟策について提案を行うことができた。

具体的には、浪江町において基幹農業の一つである稲作農業の現場での体験と意見交換、新規就農した農業者（花き栽培）の現地視察とワークショップを実施し、営農再開に必要な技術的課題を共有することができた。ワークショップでは学生・教員・町職員・地元農業者で6班を作り、浪江町の農業の課題解決策と大学生としてどのような農業をやってみたいか、プレゼンテーションを行うことで学生視点での自由な発想から提案を行い、地元農業者とのコミュニケーションを深めることができた。

さらには、東京都内において、シンポジウム「福島県浪江町における農業〝新興〟に向けた取り組み～担い手育成に向けて～」を開催し、浪江町復興有識者会議委員を務めた関満博氏（一橋大学名誉教授）による基調講演「浪江のまちづくりと産業復興」をはじめとして、パネルディスカッションを行い、新たな産業としての農業〝新興〟に向けて何をすべきなのか、福島県沿岸部支援に携わる有識者を交えて議論を深め、かつ情報発信を行うことができた。また、本事業では仙台市に拠点を置く農業生産法人㈱舞台ファームと連携して、現地での農業実習に関する技術的サポートを得ていることも特徴的である。

今後は、浪江町の主産業である農業の復興を可能な限り早め、新規就農者の定着を加速化し、さらには6次産業化など新しい形の産業としての農業を創造することで、地域に貢献していきたいと考えている。

大学が締結した連携協定（平成30年10月以降）

- 日本郵便株式会社（東京都、10月12日）
- 横浜市環境創造局（神奈川県、10月22日）
- ミャンマー連邦共和国カレン州政府・公益財団法人日本財団（カレン州・東京都、10月23日）
- 霧島ガストロノミー推進協議会（鹿児島県、10月23日）
- 株式会社横浜銀行（神奈川県、10月29日）
- 厚木市農業協同組合（神奈川県、11月7日）
- 相馬市（福島県、12月20日）
- 独立行政法人製品評価技術基盤機構（東京都、1月9日）
- 日清製粉グループ本社（東京都、1月28日）
- 浪江町（福島県、1月31日）
- JA東京中央会・日本ユニシス（東京都、2月1日）
- 株式会社久原家本家グループ本社（福岡県、2月13日）
- 國學院大學（東京都、2月21日）
- 青山学院大学（東京都、2月25日）
- 阿見町（茨城県、3月18日）
- 山都町（熊本県、3月27日）

役立つ機能発揮へ

締結団体参加し2回目の交流会

締結団体から80人が参加した産官学意見交流会

東京農業大学は平成30年12月7日、世田谷キャンパスで「2018産官学意見交流会」を開いた。本学と連携協定を締結している自治体やJA・企業の担当者80人が参加し、地域活性化のための人材育成・連携のあり方について議論した。また、地域づくりに求められる視点、ストーリー性の重要さ、産官学それぞれの在り方について認識を深めた。

意見交流会は17年に続き2回目。総合研究所との共催。高野克己学長は主催者として「大学と企業・自治体と結んでいる連携協定は、研究課題を教育を通して解決していくことが狙いだ。大学がプラットホームとして役割を担っていけるよう、機能を強化したい」と述べた。新部昭夫副学長は「地域創生活動や地域活性化に何が必要なのか。展望が開けるような交流会にしたい」と強調した。

来賓の椎川忍地域活性化センター理事長は「地域活性化のために人材育成をしている自治体は多い。自分たちの知らない世界に飛び込み『知の探索』をし、人や地域を横に結び付けてイノベーションを起こし、課題を解決できる『横串人材』の育成が産学官に求められている」とあいさつした。

基調講演は農大生物産業学部の木村俊昭教授が「地域創生 産官学連携の本質」と題して行った。事例発表では、静岡県富士宮市、化粧品会社のアルビオンが発表。富士宮市は牛ふん処理について報告した。アルビオンは食香粧化学科と連携して研究・開発していると話した。

ポスターセッションでは、自治体、JA、企業21団体が、それぞれの取り組みを発表し、活発に意見交換した。また、情報交換会も行われ交流・議論を深めた。

Campus now

農の心を伝える収穫祭はおおにぎわい

世田谷キャンパス

地域の協力で大盛況

世田谷キャンパスでは、11月1日（木）から5日（月）の5日間にわたり、創立127年東京農業大学収穫祭が開かれた。「農の心を手渡す」というテーマの下、農大関係者だけでなく地域の方々の協力もあり、大いに盛り上がった。ここ数年休憩スペースやダイコンチャリティー配布場所として使用していたユリノキ広場が研究棟建設の影響で使用できず、規模を縮小したものの、8万人を超える人でにぎわった。

模擬店・即売店には79団体が出店し、毎年好評のみそや蜂蜜、野菜など多くの物が販売された。1号館では文化学術展が行われ、研究室や農友会各部などが数多く出展し、日頃の研究内容・活動内容を発表した。桜丘アリーナで行われたス

大盛況の模擬店・即売店

テージ企画では、全年齢向けの企画を数多く行い、誰でも楽しめるステージとなっていた。

恒例のイベントとなっているダイコンチャリティー配布では、計3000本のダイコンを提供した。このチャリティーで12万6417円が集まり、平成30年7月豪雨災害被災地、北海道胆振東部地震被災地への義援金として寄付した。また最終日に行われた体育祭では、厚木キャンパスの学科を含めた18学科が白熱した競技を繰り広げた。

今年の収穫祭は10月31日（木）から11月4日（月）の5日間にわたり開かれる。

夜の正門装飾

厚木キャンパス

〝農学部ここにあり〟

厚木キャンパス（農学部）の第19回収穫祭が平成30年11月3日（土）、4日（日）の2日間、開催された。今年のテーマは「希望芽吹く　農の祝祭」。2日目は小雨がちらついたが、2日間で合計2万6287人が来場。厚木市近隣住民をはじめ神奈川県全域、県外からも多くの人が訪れ、例年より3000人を超すにぎわいだった。

講義棟内で行われた文化学術展では、各研究室・農友会各部・同好会が農学部の特色を生かした展示を行い、年配者から子どもまで、真剣に見入っていた。

模擬店では46団体、即売会は14団体が出展し、多くの店で行列ができた。今年もバスロータリー下の畑では、学生が主体となり活動したプロジェクトチームがダイコン4000本を栽培し、来場者に「ダイコン収穫体験」を楽しんでいただいた。隣の畑では毎年恒例の「親子限定サツマイモ掘り体験」も行われ、家族みんなで芋掘りを楽しんでいた。また、牛やカブトムシの「巨大わらアート」を設置し、多くの来場者が写真を撮っていた。

ダイコン収穫体験

巨大わらアート

手作り感満載の収穫祭は、本年度も多くの来場者を楽しませた。近隣住民は毎年、東京農業大学の収穫祭を楽しみにしており、10月に入るとたびたび大学に問い合わせがあるほどで、厚木市にとっても恒例の行事となっている。“厚木に農学部あり”と皆さま方から親しまれるようになったことがうかがえる。

今年の収穫祭は11月2日（土）、3日（日）の2日間開催される。校友の皆さんも、ぜひ厚木キャンパスの収穫祭に足をお運びいただきたい。

北海道オホーツクキャンパス

学部の30周年を記念

学生たち最大のイベントである、オホーツク収穫祭が平成30年10月6日（土）～8日（月）の日程で生物産業学部開学30周年を記念して盛大

学生と地域の皆さんで賑わう模擬店

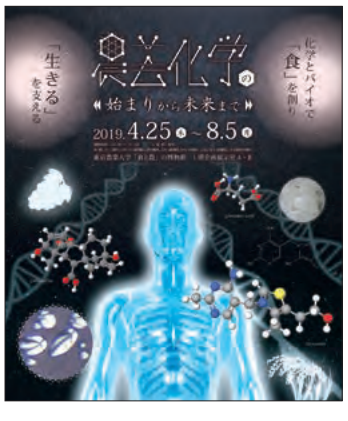
に開催された。今年の統一テーマは「農力～our abilities～」。北海道オホーツクキャンパスの学生たちが持っている個性豊かな能力（農力）を最大限に発揮し、節目となる収穫祭を盛り上げようと掲げたテーマ。本祭初日の7日は、台風25号の影響により、模擬店や農大マルシェ（収穫祭と併催）など屋外で実施するイベントが一部中止となったが、3日間で約9000人の方にご来場いただき盛り上がった。「地域との協働」を掲げている北海道オホーツクキャンパスでは、収穫祭においても地域の方が参加できる特色あるイベントを今年も多数企画。農大マルシェ、少年野球大会、サケつかみ体験、よさこい踊りなどなど。

最終日は体育館での閉会式を終え、雨が降る中フィナーレを飾る打ち上げ花火とキャンプファイヤーの会場へ向かうと、これまで半年にわたり頑張って準備してきた各本部の学生たちをねぎらうかのように雨がやんだ。オホーツクの夜空に咲く花火を見た後、多くの参加者がファイヤーを囲んで青山ほとり（大根おどり）を記念となる30周踊った。最後まで学生・教職員・地域が一体となった収穫祭だった。

収穫祭のトリは打ち上げ花火

今年の収穫祭は10月13日（日）、14日（月）の2日間開催される。

食と農の博物館だより



企画展示

「農芸化学の始まりから未来まで―化学とバイオで「食」を創り、「生きる」を支える―」

「農芸化学科」という学科名称が日本の大学から消えて久しいが、化学的根拠に基づいて農・食・生活に関わる新技術を生み出し続ける学問分野を表す日本語としては「農芸化学」が最もふさわしい。その農芸化学を改めて広く知ってもらうために企画展を行う。

約150年前の農芸化学黎明（れいめい）期の業績がどのように日本の発展を支えてきたか、現在の農芸化学がどのような化学的知識・技術に基づいてわれわれの生活を豊かにしているのか、さらにこれから農芸化学はどのように発展していくのか、を展示物やイベントを通じて紹介する。

○会期：4月25日（木）～8月5日（月）

これからの展示

「ロシアの自然―極東ロシアの生物多様性―」（仮称）

ロシアの政府機関であるクロノツキイ自然保護区は、ロシアでもっとも歴史ある自然保護区である。ロシア、特に極東地域の優れた景観と生物多様性を誇る国立自然公園と自然護区を、多数の美しい写真パネルで紹介する。

○会期：8月23日（金）～10月14日（月）

伊藤健写真展「植物園―厚木キャンパスの植物たち―」

厚木キャンパス全体が博物館法による博物館相当施設の植物園であることはあまり知られてない。つまりキャンパスは博物館という機能をも備えている。

本展では長年にわたり「植物園―厚木キャンパス」に携わり、四季折々の植物たちを通して同園を見詰めてきた伊藤健氏の多くの記録写真を紹介し、「植物園―厚木キャンパス」の過去・現在・未来を考える。

○会期：10月24日（木）～2020年4月15日（水）

その他の催事

「卒業生の蔵元紹介コーナー」会員蔵元の試飲フェア

○日時：6月22日（土）

※詳細はホームページなどで発表

NEWS

3月19日、博物館2階に本学の前身「東京高等農学校」初代校長で「日本の博物館の父」と称される田中芳男先生の胸像を設置し、その除幕式が行われました。

研究室紹介 Introduction 36

食品づくりの原理とおいしさを分子の視点で解明する研究

応用生物科学部 農芸化学科 食料資源理化学研究室
教授 辻井 良政

私たちが生きるためには食料が必要です。しかしながら農業、畜産、水産などの生物産業で生産された食料資源も、そのままでは時間と共に腐敗や品質変化を起こしてしまい、結果として貴重な資源を十分に利用できず、フードロスの原因になります。さまざまな資源を真に有効に活用し、おいしく安全で健康的な食料および食品を作り出すための研究が求められています。

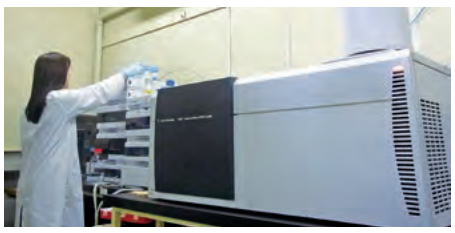
食品原材料の不思議に酵素化学的アプローチで挑戦

食品に関する研究は、加工の立場から安定的な品質、安全性、3次機能性などを対象とします。品質の安定化についてはさまざまな研究者が取り組み、多くの知見が得られていますが、その研究は食材や加工品の成分分析を主としています。しかし、食品の原材料が生物由来であるため、その成分変化はその生物の内在する物質によることが考えられています。当研究室では、食品原材料に対して酵素化学的にアプローチする研究を進めています。例えば、米の貯蔵性に関わる米ぬか中の脂質分解酵素による分解機構、ジャガイモの粉質系および粘質系に関わる細胞壁分解酵素の作用機序、お米の炊飯過程中におけるご飯の粘り形成に関わるでんぷん分解酵素、およびご飯の柔らかさやもちもち感に関わる細胞壁分解酵素の影響要因、製パン性や製麺性に関わるタンパク質架橋酵素の作用機序などを明らかにしてきました。

食品の味覚や品質の分析にガスクロマトグラフ質量分析

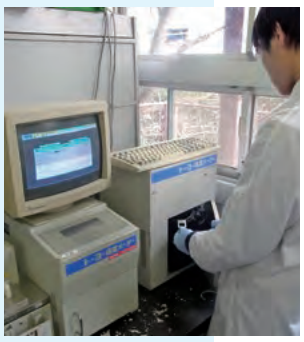
食品づくりを分子レベルで理解する

食品は生物のさまざまな構成分子の集合体であり、それが直接または間接的に加工過程において互いに関与し、品質が大きく変化します。そのため、食品の主要構成成分であるタンパク質および糖質がどの加工過程でどのような変化を起こしているのか、事象ごとに生物的、化学的、生化学的視点から分子レベルで理解することを目指し研究を進めています。ヨーグルトやチーズの品質に関わる乳タンパク質の構造特性の解明、ヤマイモのとろろの粘性に関わる多糖および糖タンパク質の構造解析、製パン性および製麺性における小麦粉タンパク質の分子間相互作用解析、豆腐や湯葉の品質に関わる大豆タンパク質の分子間相互作用解析など、テーマは多岐にわたります。


構造解析に有効な情報を得られる高分解能精密質量分析計

「農大ブランド食品」の開発と実用化を研究

現在は、総合研究所の学部長主導型研究プロジェクトとして、『「栄養強化米」の開発と実用化の研究』を進め、微量ミネラルや玄米由来の機能性成分を高蓄積する栄養強化米の開発を目指しています。栄養強化米を原料とする加工食品、発酵食品、保存食、飼料といった多様な製品開発まで見据えており、生活習慣病や鉄欠乏性貧血の予防および改善に効果がある東京農大ブランド製品として広く社会貢献に役立てられるよう研究を進めています。


ご飯のおいしさを数値化する味度メーター

今後も、限りある食料資源を有効に活用するため、食品原材料の持つ特性を科学的視点で分子レベルから研究し、食品成分の化学的変化や内在性酵素の作用が原材料の貯蔵や食品の加工工程、保存中に与える影響を詳細に明らかにすることを目指し、ひいては、それら要因の制御技術を見いだし、食品産業における効率化および食品の高品質化に寄与していきたいと考えています。

東日本支援プロジェクト

復興の障害にならないために

阿武隈山地の野生動物たちの動向

地域環境科学部　森林総合科学科　教授　山﨑晃司

深刻化する野生動物と人とのトラブル

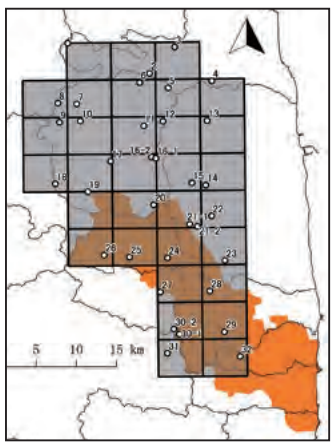
本州、四国、九州を代表する森林性の大型哺乳類として、ツキノワグマ（九州からは1950年代に絶滅）、サル、カモシカ、イノシシ、シカが挙げられる。いずれの種も、農林水産業被害や人身事故といった、人とのあつれきを起こす点で共通しており、そのせめぎ合いは近世から絶えることなく続いている。特にここの数十年は、里山（中山間地域）での過疎や高齢化による地域からの活性の喪失が、野生動物の攻勢を強める原因となっている。さらに、森林を地域の人々が利用しなくなったり、耕作放棄地が増えたりした結果、野生動物の生息に好適な環境が増加して拍車をかけている。

現在、本州以南でのシカの生息頭数は約200万頭、イノシシは約90万頭と推定される。行政は、それら動物によるあつれき軽減を狙って個体数の半減計画を推進しているが、捕獲の担い手の決定的な不足もあり、目標を達成できるかは微妙な状況にある。ツキノワグマによる人身事故や農林業被害、サルによる耕作地への度重なる出没も大きな社会的問題として捉えられている。

阿武隈山地で心配されること

宮城県南端から、福島県の浜通りを経て茨城県北部に連なる阿武隈山地にも、大型哺乳類は生息する。イノシシ、サル、カモシカが生息種だが、近年はツキノワグマの再分布が確認されている。幸いなことに、シカはまだ定着していない。

しかし、福島第一原発の事故による大量の放射性物質のフォールアウトにより、平成23年の事故から長い時間がたった現在でも、阿武隈山地の広い範囲が帰還困難地域に指定され、人々の生活や生産活動が制限されている。まさに、本州以南で起こっている、里山地域からの人の撤退、新たな野生動物の好適な生息環境の創成が、より大きな規模で、しかも急速に起こってしまった地域と言える。


白丸が調査地点、灰色の枠内が調査範囲、オレンジ色が帰還困難区域を示す

森林内からの放射性物質の除染は、行政も手を付けられない現状から考え、森林をソースとした、野生動物の数や分布域の増加、さらには森林辺縁部への侵出が今後の懸念である。

現在、急ピッチで進められている居住地や耕作地の除染作業により、今後人々が浜通りに戻ってくることが期待される中で、野生動物問題を看過することはできない。せっかくの地域復興に、障害となって立ちはだかる可能性が大きいからである。

阿武隈山地の野生動物の現状を調べる

このような背景の中、29年の後半から、阿武隈山地において森林性野生動物の生息動態把握調査を開始した。農大森林総合科学科森林生態学研究室の教員と大学院生（鈴木郁子さん）、福島県環境創造センターとの協働である。人員と研究予算の関係から、阿武隈山地の全ては網羅できないため、北東部の約800平方キロを対象とした。対象地域を5×5キロのグリッドに分け、それらすべてのグリッド内の広葉樹林帯に、赤外線による24時間自動撮影可能な無人カメラを仕掛けた。

イノシシ、サルは、すでに国立環境研究所や中央農業研究所などの国の研究機関が一部でモニタリングを開始していたこともあり、誰も手を付けていない、ツキノワグマの生息動向把握に主眼を置いた。誘引物として蜂蜜などを用い、クマの体毛を非侵襲的に採取できる工夫を行い、遺伝解析によるクマの出自（どこの地域から阿武隈に来たのか）の分析と生息個体数推定を目指した。

実際には無人カメラ設置地点の選定と、国有林利用許可を得るために約1年間を費やし、現地調査のスタートは、30年夏にずれこんだ。無人カメラを設置した計32グリッドの見回りは、2週間に一回の頻度で3日間ほどかけて行った。

無人カメラの設置作業の様子

これまでに分かってきたこと

カメラ設置は30年7月下旬から12月下旬の約5カ月間であった。カメラの延べ稼働日数は約4400日間で、2万5000件以上の計11種類の哺乳動物が撮影された。このうち600件が大型哺乳類で、ツキノワグマ、カモシカ、サル、イノシシが撮影された。ただし、カメラ設置開始時期が7月下旬となり、クマの誘引に好適な春から初夏を逃したことと、そもそもクマの生息頭数が低い可能性もあり、クマは全期間を通して1回撮影されたにとどまった。今回は解析の対象とはなり得ず、残念な結果となった。

クマ以外の大型哺乳類については、データをモデル解析したところ、興味深い知見が得られてきている。イノシシは、帰還困難地域内で特に出現が目立った。これは、帰還困難地域外での捕獲事業が功を奏している結果を示す一方で、帰還困難地域内がソースとなって今後その外側に個体を供給する可能性を示した。帰還困難地域外で多かった。これは、帰還した人々が栽培する農作物などに依存を始めた可能性を示した。帰還困難区域周辺部でのサルの管理が喫緊といえよう。カモシカは、より低標高地で出現が目立った。阿武隈にはシカが分布しないため種間の競合がなく、また里山での人間活動が低いため、分布範囲を下げてきているのかも知れない。今後の農林業への影響が心配され、注意深いモニタリングが求められる。

無人カメラにより撮影されたカモシカ

調査は31年以降も継続する予定である。さらなる情報の蓄積に務め、阿武隈地域での野生動物管理の基礎情報として関連行政に提供したいと考えている。

「oneコイン募金」陸上競技部に寄贈

東京農業大学校友会は、母校農大と一体となって、陸上競技部の強化対策への支援の一助とするため、「箱根駅伝への道oneコイン募金」を昨年4月からスタートしました。

全国から寄せられた募金は平成31年3月末で2,216件、517万4,477円となりました。皆さまに感謝申し上げます。

寄せられた募金から、第1期分200万円を男子長距離セクションの強化対策費として陸上競技部に寄贈しました。

寄贈式は平成30年12月14日に行われ、校友会本部役員が出席。三好吉清会長から陸上競技部の矢口行雄部長と小指徹・男子監督に手渡されました。

小指監督は「oneコイン募金は心強い。箱根駅伝への強化対策に、しっかり有効に使わせていただきます」と述べました。

校友会本部役員出席のもと、寄贈式が行われた。左から三好会長、矢口部長、小指監督

箱根への道 oneコイン募金

募金者ご芳名

※平成30年9月から平成31年3月末までに校友会本部にお届けいただいた方々です。これ以降も募金された方については毎号掲載させていただきます。

（順不同、敬称略）

【北海道】
田村紀晃　湯浅信市　吉田勉幸　竹内勇　宮田純一　西埜裕司　小西美乃里　岩本任功　長信一郎
▽支部総会　参加者一同

【青森県】
斗沢一雄　小笠原萬三　西村弥三郎　苫米地建樹　西村隆　石鉢公大　大谷卓司　大谷浩彰　苫米地洋士　大谷理嘉　葛西徹也　宮古武佐藤広大　佐藤雄大　佐藤京子　諏訪内将光　大谷卓司　佐藤晋也　青森県支部一同

【岩手県】
千田武宏　河本喬　藤尾東泉　中河正克　塩沢昭雄　笹田裕一　笹田恵介　山崎義高
▽支部総会　吉田清高　田村良文　高橋清也　大坂圭市　河本喬　土屋正義　村吉尾信雄　伊藤鉄勝　工藤善一郎　佐藤和実　芹田省一　櫻井正司
▽支部総会　佐々木清勝　佐々木仁　宮崎一彦　小坂直司　七尾章三　本藤昌泰　伊藤暢　金俊英　工藤善一郎　芹田省一　三浦宗彦　高橋圭太　池田甚一　久米靖穂　鈴木直樹　清水譲　渡邊誠衛　松橋文仁　吉岡準紀　佐藤正幸　佐藤考徳　小野甲二

【山形県】
今野新一郎　後藤康太郎

【福島県】
田中幸悦　氏家又治郎　星久一郎　武藤裕一　酒井慎二　平田憲一　大井幸広　斉藤幸祐　大竹幸一　小平達也　熊田康秀　荒木翔　鈴木優　齊藤龍悟

【茨城県】
須藤佐武　北志郎　柳井三信介　山口愉隆　松井勝浩　中尾徹也　金井誠治　今哲哉　村島育朗　岡橋弘和　福田隆行　伊藤良真　江原慎太郎　栗原宏泰
▽支部拡大幹事会　清水一也　横澤馨　松田栄　反町功夫　石黒弘子　林美智子　関口玲子　清水敏夫　堀口恵子　塚越邦明　六角敏三　齋藤政雄　大井圭一　磯田喜義　須藤義則　茂木知美　栗原宏泰　小澤正和
▽支部総会　清水敏夫　反町功夫　塚越邦明　山田修　横澤馨　松村晋之　後藤彰　小谷野基　金谷道行　上原政弘　渡辺行雄　坂本巧一　小関隆則　堀口恵子　矢部知之　神保孝史　峰順子　小澤正和　越塚淳史　市川平治　長谷川美津子　加藤春臣　六角敏三　山崎清子　鈴木京子　久保富雄　稲垣英治　立花昭八郎　山下博行　岩瀬和夫　黒田好二　渡辺武能　猪野和昭　定政秀夫　小糸道陽　西典成　千葉県支部一同

【東京都】
諧広司　石橋暉彦　福井麻優子　井上洋子　田川明花　一之瀬是貫　印南敏　海老沢国利　高橋拓元　森田威男　大澤拓真　小笠原隆　朝倉世穂子　田口仁　飯干真理　大島真代　常見知弘　岡本裕子　高橋寛美　田代清重　加藤日出男　佐藤敏老　中山良子　鶴田義久　大島薫　竹内彪衛　加来慎太郎　高宮亮　大栄宏和　福田征洋　中田昌孝　田所忠弘　印南敏　佐藤雅之　澳原磨知　阿部嘉久　江川价英　三平梢
▽支部総会　本間惇　風岡洋二　高橋信茂　神田昌幸　根岸昭子　比留間孝明　黒田充　金子章敬　秋丸剛志
▽三多摩常磐松会役員会　熊谷幾麿　指田裕士　中村利行　武井深　比留間孝明　池谷佐平　福島哲男　清水陸央　天野正昭　小野甲二　馬場憲三　松川重治
▽三多摩常磐松会総会　内田敏夫　熊谷幾麿　諧広司　尾倫弘　岩崎直人　石川昭家村知加子　阿部英祐　大野真　淡路宣男　井手上末生　篠崎正人　斉藤光弘　李代鉄幸　丸塚正眞　加藤勝己　今井正巳　田口正典　吉村章夫　安田修康　岩永実花　曽我仁彦　田畑治之　長塚俊雄　伊藤義孝　小川和真　竹村勝広　尾崎汎　稲橋舞子　大野真
▽県央常磐松会　一同
▽横浜西分会懇談会　石川久雄　小林晴彦　白石哲男　森君彦　岡野剛明　加藤恒雄　森東海雄　武井常廣　鈴木啓正　石井久夫　三澤弘子
▽西湘常磐松会総会　鍵和田稔　松居靖雄　鈴木美伸　加藤恒雄　安田修康　一寸木将資　三浦忠夫　早野加津俊　持田芳雄　布施谷日出一　内藤勉　三廻部眞己　矢野純一　柳下嘉伺　石渡卓司　奥津貴和　鍵和田茂
▽横浜北部会総会　三澤元芳　坂田清一　角田隆一　吉田泰弘　森基　今戸英二　岩間貴之　大久保義和　中村俊幸　加藤紀仁　加藤恒雄　飯田正己　秋元泰夫　下山和正　神田務　武井常廣　松居靖雄　齋藤高四　井裕樹　井出裕太
▽飯伊支部総会　伊澤宏爾　伊藤元保　越田孝吉　伊藤清人　遠山善治　下嶋賢二　林隆仁　松原寛明　古田誠　安藤正和　伊藤好夫

【新潟県】
小田島藤吉　小柳豊　涌井九八郎　高橋学　関崎政一　仲林進　青柳恒郎　室岡甚一　山賀浩　加藤昭夫　吉田和夫　吉田喜代枝　吉田和喜　柴田茂　佐野昌幸　大倉哲夫
▽支部収穫祭　有志一同

【富山県】
五野日路子　高橋清治
▽支部総会　長崎助秀　広田祐一　中山忠康　青柳浩　岡田卓蔵　三屋勉　雄川薫　雅　宗景昭　石田博信　木下眞　池田博一　山口誠

【石川県】
石田弘栄　辰野毅　前寺清一　橋場勇生　荒井直明　西野邦明
▽支部総会　毛利賠郎　高井治　俵屋都士　本多宗勝　安田舜一郎　柴野大盾　上坂英善　荒木弥三郎　新保博　池田勉　高畠格　粟森朋行　林俊明　木村修　谷耕一　大土明久　竹田廣　森永壽久　本昌康　村松憲　鵜飼信裕　久保田浩司　長尾有祐　丹羽亮介　山田幸之介

【静岡県】
山本勇次　鈴木雅之　鈴木勝良　佐々木明　大澤卓広　小林伸吉　稲葉伸雄　興津喜祐　滝山新之助　渡辺英彰
▽教育後援会地方懇談会　糠谷禎則　稲木浩之　高田千恵子　西島弘一郎　光林治　加納秀紀　平野正明　深沢嘉紀　澤村章二　望月俊明　植村裕　彦山萌香　杉浦航太　甘楽敏　中村善昭　稲村大貴　鈴木奏絵　渡部遼　土屋大智　星谷友理　坂下穂乃花　田京朋美　南克樹　鈴木梨紗　安藤泰　土屋朋子　太田雄治　長島綾也　丸山翔　西崎公康　大石航暉　川口友輔　岡本鮎美　福本朱理　梅原宏幸　藤井祐作　倉野虎太郎　手塚大輝　菊池洋祐　小林克充　小野達也　稲木浩之　池田和　影山智久　磯辺慎太郎　磯部有岐也　稲本朱理　武藤芳男　横溝千都生　新村輝　降旗笙吾　井川侑紀　小笠原優輝　城所海斗　富岡恭冴　三原真智人　岩田有真　藤原慎
▽遠州常磐松総会　小倉珠子　糠谷禎則　中津川英彦　後藤友彦　高橋佑輔　松野吉司人　鈴木加津久　平尾温己　堀尾紀子　小畑勝裕　平岡知明
▽東部分会総会　木田英雄　田中豊　山本宜司　上杉義行　稲葉正仁　小林悟　西島弘一郎　武藤芳男　稲木浩之　糠谷禎則
▽小笠常磐松会総会　松下芳春　進士宜仁　柴田哲男　大林秀　宮崎行博　黒田淳之助　近藤正人
▽静岡常磐松会総会　平岡立花照弘　塚本惣一郎　岡本鷹司　中西瞳　菅村哲也　畑佐直樹　佐藤直樹　寺田又康　椿野健次　小寺信之　小菅健司　中井智規　梶原学　石井宏之　豊住泰久　大森基樹

【奈良県】
柿坂彌壽麿　野崎浩二
▽支部総会　涌田和宙　樫岡健弥　柏本安弘　杉本義衛　橋本芳廣　倉窪努　喜多良和　吉岡秀一　古山賢治　奥中孝俊　倉窪孝　藤熊昇　東口義巳　倉本嘉文　宮下公一　井上成康　中島祥之　原実　金山浩一　東田中英之　奥中俊樹　相馬友一郎　井上博文　金森悠関口彩　常盤真衣　林悠太

【和歌山県】
▽支部役員会　森川直博　芝吉信　池田典代　河野孝史　澤田照子　林祐光　大浦俊一　山下裕　尾隠山明宏　花田益子　阪本康敬
▽支部教職員部会　岡室好典　楠見隆功　木村彰吾　山本俊樹　井上恵和　大浦俊一　水野哲男　辻亮輔　奥谷芳弘　生本貴大　野田真輝　谷晋作

【鳥取県】
尾崎史明　森田尚子　柴田洋司　牧田政人

【島根県】
吉田康雄　三浦和成　坂根重治　安部洋一　三浦兼浩　山崎洋平　堀江康輔
▽支部総会　安永友行　石田栄治　小野甲二　桑原三平　柳井良仁　武内白　野村博　大畑整　周藤康令
▽松江分会総会　松本政義　木戸敬二　辻原理　澤江邦雄　田中敬一郎　松本秀邦　門脇康夫　園山幸雄　山本善万　砂流潤一　野津朗　目次俊司　佐々木和人　周藤康令　長岡恒夫　淳司　中村孝　田中健一　花村太郎　金弘鴻太郎　村上圭三　福嶋宏道　義満謙二　高嘗達生　弘岡幸　永山純一郎　柳原鐵生　永尾孝司　松原薫　伊藤勉　白松英明　小林識史　小林翠　河村洋亮　大谷貴敬　原田亮彦　松田和人　三井秀行　有田明博　鰐石征記　大儀順子　和田愛一郎　山根崇雄　岡川則昭　勝谷雅彦　佐々木弘太郎　沖原力哉　岡本秀一　澄田嘉之　羽嶋元希　田中孝雄　吉野辰生　田中隆夫　友廣祐二　佐伯誠　寺岡恵　藤井孝　中澤勝司　和﨑正経　八木秀生　清水浩司　義嶋毅　土藤井東　廣瀬天正　藤林靖之　嶋崎日出夫　守田宏和　木村晋　福永光世　尾山皎　金子恵子　冨田安英　清木伸二　徳重明彦　重岡俊朗　長嶺良二　安達哲司
▽支部総会　古谷雅彦　岸田雅洋　冨永雄一郎　義満謙二　田中隆夫　長嶺良二　清水浩司　楠本繁　山本俊夫　松重敦雄　木村泰博　佐伯誠　山本敏昭　森和義　森法子　岡畠斉　井上善夫　小田昌宏　村田満　白松英明　義嶋毅士　今田成則　金子省一　西山宏幸　幸坂英一郎　岡本秀一　松永伸也　村田一朗　岡畠康太　井上善史　伊藤昌吾

【徳島県】
山本祐三郎　久保素弘

【香川県】
湊和孝　十河土志夫
▽支部総会　富田導　國宗達旦　王尾敬　大森薫之　高笠原昭男　横田和幸　渡邊正樹　篠原繁生　齋藤勝範　溝内一乗　山本敏一　泉川祥治　早瀬文昭　竹本雅晴　十河土志夫　近藤弥　田中昭徳　中西正憲　泉保

谷信明　内記和彦　高橋雪
人　千葉理嗣　伊藤武　藤
尾東泉　高橋伸夫　長澤貴
夫　村松仁士　駒崎作郎
神山秀市　吉田達夫　宮澤
雅隆　太田幸司　藤原誠太
田沼征彦　足澤匡　佐藤康
之　國分敏彦　千田武宏
佐藤佐津夫　運萬勇　南川
昌信　高橋真二郎　小山田
舜次郎　伊藤秀一　鎌田定
悦　小野甲二

【宮城県】

芳賀昊　会田保良　遠藤功
今野卓也　遊佐久和　門間
清

▽支部総会　相原美穂　淺
見紀夫　阿部幸弘　伊藤裕
之　遠藤鷹一　大川武彦
大友雅彦　小野和廣　川名
釀治　加藤功　古積昇　小
室秀行　西條將志　斉藤顕
喜　櫻田正之　佐々木政夫
鈴木和人　高橋久次　高橋
汎　高橋良典　鶴元博之
永井博　永田幸洋　行方博
新野憲秋　西山豊　芳賀昊
早坂薫　冬頭佳明　辺見徳
郎　本間史郎　松尾安人
松本憲一　峯岸孝浩　宮澤
雅隆　山田龍太郎　吉田一
将　渡辺康夫

【秋田県】

郎　加藤裕之　石田清泰
原田博之　藤田長司　宮本
卓緒　田邊市郎　上浦江身
子　石井厚之

▽支部総会　藤澤順一　松
本正宏　高野三郎　外ノ岡
政典　長谷川泉　山崎和久
成井重美

▽時津風部屋激励会　木嶋
孝　高野三郎　池田正　藤
澤順一　狩野平左衛門岳也
村上洋一　杉山佳弘　川島
安則　参加者有志

【栃木県】

布袋田実　岩渕守男　鈴木
崇之

【群馬県】

中村有佑　和泉一郎　二宮
松寿　成田邦夫　中山康雄
上原伸吾　上原由美　笹澤
春雄　宮下健祐　中田和志
清水基　富沢優太　中澤丈
一　木暮孝志

▽県庁ときわ会　重田英男
岩上憲司　中澤丈一　金谷
道行　高橋博光　稲木一秀
永島豊　高橋伸幸　伊藤義
貴　吉田輝彦　樹下紀之

▽支部教職員部会　島ノ江
繁　笹島晃一　月精道郎
山田繁　田口貴雄　清水敏
夫　市川平治　飯島直子
原鈴音　三友ゆかり　櫻木

【埼玉県】

中山志生里　亀井洋孝　石
井幸雄　三谷泰明　八幡敏
正　佐野一隆　小澤明宏
金子博之　大谷彰　吉田健
塚田孝　吉田健一　風間勉
高坂省吾　佐々木淑元　鵜
飼梨江子　角谷幸平　田中
忠明　柴田忠雄　山崎康成
粕谷貞夫　岡本素子　森田
勝　町田憲昭　外園惆　水
澤洋介　安達哲司

▽所沢常盤会　北田紀久雄
堀澤有里子　加藤晃司　庄
司達弘　的野隼也　大河内
裕之　高橋広成　伊藤一夫
水澤洋介　安達哲司　関谷
佳和　吉田昌男　杉田忠彦
河口早苗　北田良孝　小澤
勇　北田孝夫　神谷祐樹
渡辺菜央　吉田明宏

▽秩父常盤会　吉田進　山
中祐一　山口芳正

▽川越支部総会　大河内裕
之　山崎正治　伊藤一夫
忍田純啓　黒澤きよ子　松
本公夫　岡田力　田中淳
中島洋志　鯨井裕康　長嶋
保雄　関根直子　本橋清樹
水澤洋介

【千葉県】

鈴木淳　三須健一　末吉幸
康　亀田雄司　菊地謙二

池谷佐平　秋田谷敏郎　黒
澤慶一　飯倉正仁　深沢司
高橋秀夫　福島哲男　今井
義彦　大野寿樹　横田隆裕
吉田恵吏子　武井深　森屋
佳山　馬場憲三　中村利行
高橋信茂　神田昌幸　比留
間孝明　金子章敬　土方康
全　中西一弘　村田訓男
三井昌生　高梨雅明　兵頭
勲　松川重治　清水原光
市川晴朗　高橋尚寛　石川
公一　太田順也　玉野淳子
吉田嘉文　増田勝彦　武井
素文

**▽三多摩常磐松会・箱根予
選応援**　馬場憲三　安達哲
司

▽東京都支部新年会　比留
間孝明　黒田充　石川公一
後藤隆子　井出和明　峰順
子　中村利行　金子章敬
池田長二郎　神田昌幸　大
矢四十六　結束重信　風岡
洋二　馬場憲三　青山秀夫
江森忍　山田恵子　齋藤悟
本間惇　佐藤敏老　大倉剛
宮崎健三　鶴見健悟　池谷
佐平　小堀紀明　難波江豊

【神奈川県】

岩崎貞道　出口圭介　細谷
晋之　高見澤佑介　横山義
一　三浦節子　銀山健　高

三好吉清

▽教職員部会総会　加藤恒
雄　清水圭一　加来功　青
木博久　嶋田治義　間橋元
治　岩崎秀太　尾尻賢一
松尾実志　田代善則　山本
直樹　高橋晋太郎　坂田祐
一　渋谷幹雄　山口歩

【山梨県】

名取幸史　功刀旭　渕田光
男　宮崎清美　齊藤陽一
小野甲二

▽支部総会　支部一同

【長野県】

竹村義久　吉澤顕　横山文
彦　大下定彦　丸山一樹
酒井篤　池田幸宣　丸山広
和　有坂聡　大森祥吾　岡
本素子

▽支部総会　伊澤宏爾　小
柳邦義　町田親穂　深谷淳
前田善男　加藤廣　須田哲
青木孝憲　永田栄一　綿貫
幹雄　坂本充

▽教職員部会総会　伊澤宏
爾　町田親穂　永田栄一
平沢一　田村重俊　早川孝
志　伊藤卓也　羽山功　藤
巻善之　掛川渡　中沢剛
小山達朗　細野雅也　小木
曽貴幸　嘉部義久　山崎健
悟　阿部英樹　望月ゆかり
日詰妙子　新井泰祐　山野

一　中川徹　曽根正巳　前
松伸　巽常義　室谷敏彦
勝田正栄　橋場勇生　笠野
浩一　関川潤一郎　川本幸
進　米林格栄　中山健二
坂本林太郎　貝崎葉月　北
口博之　新出剛悠　土田龍
之介　清水嵩士

【福井県】

奥田俊夫　山本秀勝　清水
豊之

▽支部総会　土田茂一　山
本秀勝　谷政八　小林美宏
田島千利　水上幸雄　山内
義明　谷口修一　川端嘉明
米倉久喜　嶋田宏行　岡本
憲文　岩居俊伸　前川和泉
前川雅弘　新宮英豊　橋本
博徳　田原康治　杉谷彰太
池田涼子　奥田俊夫　山崎
遼市

【岐阜県】

蒲茂太郎　杉山誠次　太幡
正樹　内藤邦雄　水野鉄治
岩本英司　鵜飼信裕　青木
宏達　赤池保　國島隆重
國島純子　川瀬勝之　川瀬
泰孝　大塚清孝

▽多治見部会　太幡正樹
中島豊之　小泉茂章　川畑
知治　吉田博孝　保母望
保母美江　水野鉄治　久野
重徳　中島浩平　村手洋之

知明　望月俊明　望月保秀
大橋和美　湯浅邦次　杉本
充俊　渡邊龍太郎　小林功
子　田形清信　糠谷禎則
望月稔之　望月敬二　松本
肇

【愛知県】

稲葉康緒　福澤真理　天野
政敏　山口範雄　荒木義哉
柴田昌典　藤原幹紹　浅井
信太郎

【三重県】

上永信介　青木俊文　中井
哲夫　浅井房子　伊藤正広
山本勝征

【滋賀県】

▽支部総会　参加者一同

【京都府】

小西偉世　高日音彦　山添
利一朗　堤久雄　宮入勲
清水国古　能勢清人

▽支部総会　藤田洋嗣　山
本弥素典　奥田豊　高石正
之　小島義治　宮城敬　小
林正典　藤永実　伊藤義男
水田俊宏　須藤武彦　山岡
俊幸　片山博昭　平野正樹
矢野早希子　矢野正貴　矢
田佐智　小林亜純　松尾大
地　小林大祐　池内惇　川
邉哲平　北山浩士　三宅直
人

【大阪府】

金田真司　藤田健一　鶴淳
二　荒木元明　西田義次
上村英登司　割野孝太朗

▽支部総会　廣瀬昌司　林
成光　八木政次　千葉明夫
上村英登司　渡辺昭夫　西
田義次　齋藤拓也　櫻井清
森本豊秋　割野孝太朗　小
糸真　上野克之　青山宏
西村雅史　稲田善弘　佐々
木洋一　藤田善敬　佐々木
直人　阪口昌行　田中国士
松尾秀昭　大下浦直希　橋
本憲治

【兵庫県】

大石貴洋　嘉藤清直　横田
守　国賀正春　井出康平

【岡山県】

秋山彩花　金平邦男

▽支部教職員部会　赤澤猛
本郷繁之　小見山昌夫　永
原豊　植月基行　植月亮介
廣田耕治　川口雄士郎　加
門敏弘　光石正和　吉村惇
史　安東厚生　高橋正侑

▽支部役員会　赤澤猛　井
原敬典　祇園公子　井上敬
一　廣瀬洋一　馬場深　時
尾博之　斉藤弘道　芦田淳
横林秀樹　實村文昭　奥山
総一郎　津本辰己

▽支部総会　赤澤猛　横林
秀樹　金行孝雄　芦田淳
目瀬陽介　馬場深　本郷繁
之　大野豊　広瀬たき江
玉木正夫　祇園公子　永原
豊　横田稔　石井秀生　時
尾博之　宇津見樹相　井原
敬典　平岡栄　奥山総一郎
橋恭一　山磨孝一　福井通
昭　内田守　斉藤弘道　福
原石根　高橋正侑　八田誠
廣瀬洋一　山部慎一　津本
辰己　小出総太郎　安東厚
生　西村倫仁　渡邉英気

【広島県】

縄稚康雄　吉光康雄　森岡
清雅　森岡秀太　竹重博樹

【山口県】

佐伯誠　山本俊夫　高嵜達
生　楠本繁　中村正彦　末
岡淳一　浜田好生　村林和
義　永松幸三　岡畠斉　田
村勝二　野村和彦　松下基
正　山本義文　那須勝一
内田主税　礒金竹雄　豊島
勝彦　冨田康史　今田成則
小林康和　平岡文夫　福本
憲史　藤田洋三　金子秀人
冨永雄一郎　石丸章　壱岐
英典　村田哲雄　世良昇
田川朝典　松重敦雄　岡本
恭明　三好新一郎　山本和
男　河村章寛　嶋田亨功
堀江佳夫　阿武宏　津森勝
則　井上善夫　山口直子
冨永英典　木村泰博　廣兼

創　松原祥平

【愛媛県】

藤本明男　小野山量大

【高知県】

横山正　西山武

【福岡県】

牛嶋泰樹　高坂祐一　田篭
利公　深町吉秀　橋本尚典
奥村洋明

【佐賀県】

古川繁樹

▽支部総会　出席者有志一
同

▽青春寮歌祭　古川繁樹
本多巨邦　江頭義彦　古川
秀一

**▽支部役員及び職域別役員
合同会議**　石橋剛児　辻川
賢也　古川繁樹　吉岡靖博
阿津坂剛　山田豊　挽地貞
哉　北原努　藤永伸之　深
瀬信博　古川秀一　水田秀
徳　濱野克錦

【長崎県】

坪内良平　野口実男　松本
成明　野瀬耕一　古賀勝弘
横山省三　谷口幸一　前川
忠敏

▽支部総会　支部一同

【熊本県】

三森孝一　田上征人　今村
渉　奥村敏明　角恵介　村
田健　西山公英

【大分県】

高橋巌　井上伸史

【宮崎県】

▽支部総会　出席者一同

【鹿児島県】

西郷純一　大迫毅　新原道
晃

【沖縄県】

加賀美歩　比嘉昌晋　支部
有志（13名）

【パラグアイ】

合田義雄

【団体】

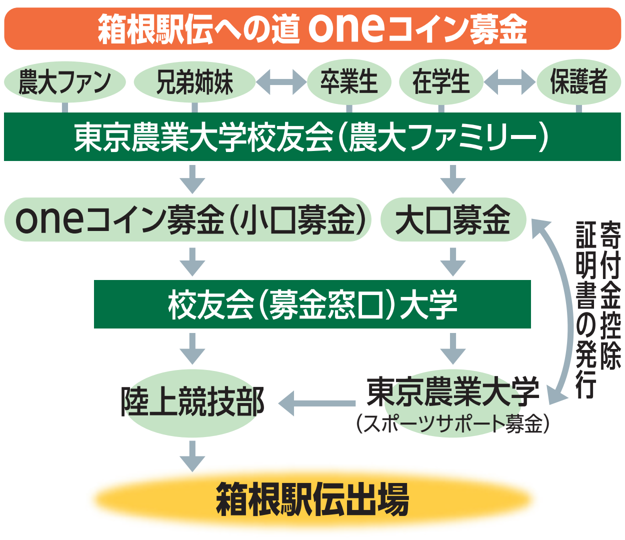
農業拓殖11期会一同

【その他】

小池福子　佐々木勉

募金の概要

1. 名　称：箱根駅伝への道 oneコイン募金
2. 募金額：(1)一　　口　500円以上（複数回）
   (2)全体目標　1億円（1000万円／年）
   (3)支部別目標　1支部200万円（20万円／年）
   (4)募金期間　平成30年4月から10年間
3. 募金概念図──下図参照
4. 寄付金控除を希望する大口募金者は、大学スポーツサポート募金とする。
5. 校友会から大学に寄付する場合は、スポーツサポート募金とする。
6. 募金活動運営費：募金額の20%以内の額を経費とする。



募金の仕方・集め方

銀行送金で寄付

1 寄付金控除を希望しない場合

①ゆうちょ銀行「払込取扱票」にてお振り込みください（**校友会ニュース同封**）。
②一口500円以上（金額にかかわらず何口でも、何回でも、毎年でも）
③送金手数料は掛かりません。

2 寄付金控除を希望する場合（大口寄付）

東京農大スポーツサポート募金（同封のパンフレット）の三井住友銀行、三菱東京ＵＦＪ銀行、ゆうちょ銀行の「払込取扱票」でお振り込みください。

校友会支部総会などの集会で現金を寄付

①一口500円以上（金額にかかわらず何口でも、何回でも、毎年でも）
②原則として、募金用紙（**写真下**）に名前・金額を記入して募金箱（**写真下**）に投入してください。
③領収書は発行しません。
④校友会支部長（または幹事長）は、集会ごとの寄付金をゆうちょ銀行「払込取扱票」でお振り込みください（募金箱に投入された募金用紙は本部に郵送してください）。
⑤払込取扱票通信欄に「（例）〇〇支部総会参加者一同」と記載してください。

＊校友会本部への寄付者のご芳名は、原則として校友会ニュースに掲載いたします。
＊「箱根駅伝への道oneコイン募金」についてのご質問等は校友会本部にお問い合わせください。

2019年度　教育後援会地方懇談会開催日程（予定）

全国24会場：7月20日（土）、21（日）

開催地		会場	開催日
秋田県	秋田市	ホテルメトロポリタン秋田	7月21日（日）
福島県	郡山市	郡山ビューホテル	7月20日（土）
山形県	山形市	山形国際ホテル	7月21日（日）
茨城県	水戸市	三の丸ホテル	7月20日（土）
栃木県	宇都宮市	宇都宮グランドホテル	7月21日（日）
千葉県	千葉市	TKPガーデンシティ千葉	7月20日（土）
群馬県	高崎市	ホテルグランビュー高崎	7月21日（日）
長野県	長野市	ホテル国際21	7月20日（土）
新潟県	長岡市	ホテルニューオータニ長岡	7月21日（日）
福井県	福井市	福井フェニックスホテル	7月20日（土）
富山県	富山市	ホテルグランテラス富山	7月21日（日）
静岡県	浜松市	オークラアクトシティホテル浜松	7月20日（土）
三重県	津市	都シティ津ホテル	7月21日（日）
和歌山県	和歌山市	シティイン和歌山	7月20日（土）
大阪府	大阪市	大阪新阪急ホテル	7月21日（日）
岡山県	岡山市	ホテルグランヴィア岡山	7月20日（土）
兵庫県	神戸市	ANAクラウンプラザホテル神戸	7月21日（日）
愛媛県	松山市	ホテルサンルート松山	7月20日（土）
高知県	高知市	高知パレスホテル	7月21日（日）
山口県	山口市	ホテルニュータナカ	7月20日（土）
長崎県	長崎市	ANAクラウンプラザホテル長崎グラバーヒル	7月20日（土）
鹿児島県	鹿児島市	鹿児島東急REIホテル	7月20日（土）
福岡県	福岡市	オリエンタルホテル福岡	7月21日（日）
沖縄県	那覇市	ネストホテル沖縄	7月20日（土）

当日スケジュール（予定）

10:00～10:30　受け付け
10:30～11:50　教育後援会全体会
（大学の近況報告、就職状況など）
12:00～12:50　保護者・校友会・教職員との懇親会（昼食）
13:00～15:30　個別相談会

※上記については、今後変更する場合がありますのでご了承ください。
※詳細に関するご案内は、5月中旬以降に開催府県にお住まいの保護者の皆さまへご送付いたします。

懇談会は大学と保護者らが連携して学生への教育を効果的に行うことを目的に開催しています。

2019年の収穫祭（本祭）開催予定

世田谷キャンパス	11月1日（金）～ 3日（日）
厚木キャンパス	11月2日（土）～ 3日（日）
オホーツクキャンパス	10月13日（日）～ 14日（祝）

人ズムアップ 33

株式会社 東京チェンソーズ
青木 亮輔 氏
（平成11年林学科 卒）

補助金がなくても成り立つ林業実践

子どもの頃に偶然見た「植村直己物語」に感動し、未知の世界に挑戦することができる大学に進むことを決意。せっかくなら自然のことについて学べる大学がいいということで農大一本に絞って受験勉強しました。無事補欠合格で農学部林学科へ滑り込みました。植村直己さんは山岳部でしたが、山だけではなくもっと幅広く前人未到のフィールドに出たいという思いもあり、入学式を終えたその足で探検部へ入部しました。

大学時代は探検部での活動が学生生活の中心。誰もやったことがないことや、誰も行ったことのない場所を求めて活動していました。大学1年と3年にはモンゴルで未踏の洞窟を探し、卒業後1年間研究生で大学に残ってチベットのメコン川源流で川下りの遠征に参加するなどして、学生生活を1ミリの後悔もなく満喫していました。そんな生活を温かい目で見てくれた先生たちには感謝していますし、そのようなことを容認していただける実学主義という風土が農大にはあるのかなと思います。

1年の社会人生活を経験したのち、「足袋を履く仕事がしたい」「高齢化の進んだ林業でなら何か自分にもできることがあるのではないか」と思い、東京都西部にある檜原村森林組合の現場作業員として就職しました。森林組合での修行の後、自分が理想とする林業をやってみたいと思い、平成18年に仲間3人と独立し、今の会社「東京チェンソーズ」を創業しました。

東京チェンソーズは、東京都や檜原村などから公共事業として出てくる森林整備（植林・下刈り・間伐・枝打ち）の受託が事業の中心でしたが、26年に約10㌶の山林を取得。公共事業以外にも新しい林業の〝カタチ〟を模索しています。木のメインとなる幹については、TOKYOWOOD普及協会を通じ、製材所・プレカット会社・工務店と手を組み建築材料として丸太を販売。産直ツアーも行い施主さまの顔が見える家造りを行っています。また、30年から「森デリバリー」という事業を始めました。この事業では、建築材料にならない形の悪い部分を個性と捉え、子どもたちのおもちゃやワークショップのキットに加工。幼稚園や保育園に販売しています。

また、伐採した跡地の再造林の費用を捻出するため、26年に「東京美林倶楽部」を開始。この事業では、現代のニーズにあった森林体験サービスを提供することで、先に森づくりの費用を捻出し、補助金がなくても成り立つ林業を実践しています。今は約200組のご家族に支えられ森づくりを行っています。

東京農大の本

心とからだをもっと元気に 二十四節気を楽しむ薬膳

薬膳健康づくり研究会 編著
定価：本体2400円＋税
A4判変形・カラー・並製

◇季節の食材で作る「薬膳レシピ」を満載。節気に合わせた168品・24献立を紹介。◇立秋からの節気では「ざるそばのトウガン入つゆ」「にがうりのチーズ入肉詰め」など。お勧めは「うなぎの山かけ丼」、この時節ならではの料理が登場する。

旨みを醸し出す 麹の不思議な料理力

前橋 健二・浅利 妙峰 著
定価：本体1200円＋税
A5判・カラー・並製

◇麹（こうじ）を知る本の決定版。麹の力を知って、食材を活かす。身近な料理を演出してみてください。◇前橋健二教授の科学の目、浅利妙峰こうじ屋女将の伝統の目で、秘められた麹の力を説く。簡単に作れるレシピ満載。

戦後稲作技術史 —その技術普及過程・福井県若狭地方の事例—

村上 利夫 著
定価：本体1800円＋税
A5判・並製・口絵カラー

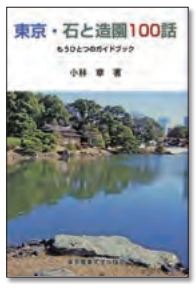
◇昭和30年代初め稲作技術は飛躍的に進化し揺るぎないものとなった。◇それはなぜか。その問いから出発した普及指導活動の貴重な記録である。◇著者は元福井県小浜市長、元農業改良普及員。

トマトをめぐる知の探検

杉山 信男 著
定価：本体2200円＋税
A5判・並製

◇トマトはなじみ深い野菜だ。健康野菜として関心が高い。多角的視点から情報をまとめている。トマトを通じて農や食の文化を考える、貴重なデータが詰まっている。参考文献は得難い資料。

東京・石と造園100話 —もうひとつのガイドブック—



小林 章 著
定価：本体2000円＋税
四六判・並製・カラー

◇著者は造園施設材料、快適な造園空間の創造などの研究教育に長年携わってきた。そのライフワークがコンパクトにまとめられている。◇『石と造園100話』『続・石と造園100話』に続く第3弾。

雑根バイブル 組織の道しるべ

樋越 勉 著
定価：本体1600円＋税
A4判・並製・口絵カラー

◇著者は東京農大北海道オホーツク野球部を神宮野球大会出場に導いた監督だ。勝つためには何が必要か。強靭（きょうじん）な心にある。そしてチームの輪だ、絆だ。それは著者の言う雑根の中にある。

申込先
東京農大出版会
〒156-8502　世田谷区桜丘1-1-1
電話　03-5477-2666
FAX　03-5477-2747

経営者フォーラム2018

大賞など9人表彰

東京農大経営者大賞などを受賞した方々（前列）

講演で理念や特色伝え 現役学生に期待の言葉

東京農大は平成30年11月30日、世田谷キャンパス百周年記念講堂で「東京農大経営者フォーラム2018」を開いた。東京農大経営者会議会員、校友、大学関係者の他、現役学生約700人が参加。東京農業大学校友会、東京農大経営者会議などが後援した。

東京農業大経営者大賞3人、経営者賞4人、特別賞2人を表彰、髙野克己学長が賞状を手渡した。

経営者大賞は東京農業大学校友の中から、優れた経営者を表彰するもので、12年度に創設された。30年度は校友会支部から4人、経営者会議から4人、学科から1人の推薦があり、これまで以上に多様な産業分野からの推薦となった。

表彰式の後、経営者大賞を受賞した稲吉正博氏（株式会社サンファーマーズ・代表取締役）、上野田隆平氏（天領酒造株式会社・代表取締役）、大場淳一氏（株式会社大場造園・代表取締役会長）の3人が記念講演を行い、経営理念や経営の特色などを述べるとともに、現役学生に期待の言葉を送った。

懇親会は、副会長の坂東総合高校・早瀬永教頭先生（昭58拓）の発声で始まり、各校が壇上に上がって自己紹介と学校の近況を報告、和やかなムードで会が進んだ。最後に、高校教育課の柳橋常喜先生（昭61化）による中締めで会が終了、来年の再開を期して散会となった。（茨城県支部教職員部会・今井芳彦、平6経）

支部教職員部会 親しく懇談

大学の近況 報告を聞く 茨城県

平成30年9月2日、水戸市内の「ホテルレイクビュー水戸」で、毎年恒例の校友会茨城県支部教職員部会が開催された。

今回の教職員部会には、来賓として茨城県支部から松本正宏支部長（昭42経）、東京農大から教職課程助教の緩利真奈美先生が出席、教職員部会の羽生昭男会長（昭57農）をはじめ32人の会員が参加した。

総会では、羽生会長のあいさつの後、松本支部長はあいさつで校友会の近況などを報告。緩利先生は、就職の内定状況が95%以上で堅調であることや、教員採用試験の合格率も高水準で推移していることなど、大学の近況を報告した。議事では、役員の改選や次期当番校などを協議した。終了後、記念撮影を行った。

総会後に参加者が記念撮影

県内農高などから会員が集まった兵庫県支部・教職員部会

造）からは、欠席されている教職部会・團章会長（昭37農）のメッセージが披露された。

石原憲一郎支部長（昭45造）の代理として出席した椿野健次幹事長（昭61経）は、推薦入試への協力のお礼を述べた後、農大と兵庫県の包括連携協定に基づく取り組みの成果や、4月開校の稲花小学校について紹介した。

木村英先生（昭44農）の乾杯のご発声で懇親会がスタート。出席者から順番に近況報告が行われ、橋口誠先生（副支部長、昭45工）の海外旅行や健康法など興味深い話に、参加者は耳を傾けていた。県立氷上高校の松井信彦先生（平12農）は、30年度に副団長として県下の農業高校生のブラジル訪問団を引率したことを報告した。最後に全員で記念撮影を行った。（兵庫県支部・椿野健次幹事長）

退職教員の門出を祝う 兵庫県

兵庫県支部・教職員部会が1月18日、加古川市の「みどり荘」で開かれた。

今回は、福本淳先生（昭56林）のご退職の送別会でもあり、県内各地の農業高校などから先生方が駆け付け、20人もの出席者となった。

猶原孝典先生（昭39林）の開会あいさつの後、福本先生に退職記念品と花束を贈呈。國賀正春先生（昭45

バイオマス作物の必要性について説明する森田教授

実際の授業で使った「今日の一品」を紹介する苗川教授

先進的な理科教育学ぶ

教育研究フォーラムに80人

第21回東京農業大学教育研究フォーラムが平成30年11月23日、世田谷キャンパス1号館で開かれた。東京農業大学教職課程と全国教職員部会連絡協議会が共催。教職課程を履修している学生、連絡協議会会員、大学教職員、校友会役員ら80人が参加した。

教職・学術情報課程の木内隆生教授は「学校教育の世界は課題が山積している。常に研さん・研修を積まなければならない」と強調し「この会で、理科教育の先進的研究を学んでいただきたい」とあいさつした。

東京農業大学農学部デザイン農学科の森田茂紀教授は「バイオマス作物の栽培研究から考える農業と環境」について講演、食料にならない作物を条件の悪い農地で栽培することが必要とし、原料作物としてジャイアント・ミスカンサス（巨大ススキ）の栽培を紹介した。

同教職・学術情報課程の苗川博史教授は「大学理科教育における『今日の一品』」について講演、実際の授業で使った事例を紹介し、興味付けと話題提供のためには実物を見せることが重要などと述べた。

支部総会開催一覧（平成30年10月～平成31年3月）

支部名	日程	出席者		参加者数	場所	講演など
		校友会	大学			
石川	平成30年10月27日（土）	外園惘副会長	応用生物科学部長・本間和宏教授	41	金沢市	—
山梨	11月9日（金）	小野甲二常任理事・事務局長	大学院農学研究科委員長・食品安全健康学科・上原万里子教授	60	甲府市	「食と健康について」上原万里子教授
福井	11月10日（土）	鳥海稔雄常任理事	デザイン農学科・多田耕太郎教授	41	福井市	—
福島	11月10日（土）	小泉幸道副会長	食料環境経済学科・大浦裕二教授	34	福島市	—
大阪	11月17日（土）	外園惘副会長	—	34	大阪市	—
北海道	平成31年1月26日（土）	豊原秀和常任理事 小野甲二常任理事・事務局長	生物産業学部長・吉田穂積教授	75	札幌市	—
宮崎	2月23日（土）	小野甲二常任理事・事務局長	入試センター・高柳和直センター長	50	宮崎市	—
群馬	2月24日（日）	小泉幸道副会長	小泉幸道名誉教授	80	前橋市	「病気だって友達」東京情報大学・加納佳代子特命副学長

平成30年度 支部教職員部会開催一覧

支部	開催日	支部	開催日
北海道	平成31.1.9	兵　庫	平成31.1.18
青　森	平成30.8.25	和歌山	平成30.9.22
宮　城	平成30.11.17	鳥　取	平成30.6.10
秋　田	平成31.1.12	島　根	平成30.8.18
福　島	平成30.11.17	岡　山	平成31.3.16
茨　城	平成30.9.1	香　川	平成30.10.5
栃　木	平成30.7.28	愛　媛	平成31.3.9
群　馬	平成30.9.8	福　岡	平成30.12.1
千　葉	平成30.6.30	佐　賀	平成31.2.22
東　京	平成30.9.24	熊　本	平成30.12.8
神奈川	平成31.3.8	大　分	平成30.6.30
長　野	平成31.2.9	鹿児島	平成30.8.25
新　潟	平成30.6.23	沖縄	平成30.6.22
三　重	平成30.7.8		平成30.8.16
京　都	平成30.6.30	28都道府県で開催	

平成30年度 東京農業大学校友会表彰　団体・個人一覧
＜平成31年1月18日　於：グリーンアカデミーホール3階大会議室＞

表彰部	氏名		学科 学年	大会日	大会名	内容
相撲部	個人	佐藤　隆史	工学3	7月29日	第45回東日本学生相撲個人体重別選手権大会／115キロ未満級	優勝
	個人	志賀　裕人	開発4	9月2日	第43回全国学生相撲個人体重別選手権大会／85キロ未満級	3位
	個人	冨栄　秀喜	森林4	8月14日	第53回全日本大学選抜相撲十和田大会／個人戦	3位
馬術部	団体			11月3・4日	第68回全日本学生賞典障害馬術競技大会／団体	3位
陸上競技部男子	個人	田中　健祐	開発4	1月2・3日	第95回東京箱根間往復大学駅伝競走／関東学生連合チーム／7区出場	特別賞
陸上競技部女子	個人	清水萌衣乃	醸造4	5月24～27日	第97回関東学生陸上競技対校選手権大会／1部／3000メートル障害決勝	準優勝
	個人	棟久　由貴	健康3	4月7日	世界大学クロスカントリー選手権大会2018／個人6位／日本女子総合優勝	出場
	個人	土田　佳奈	健康3	5月24～27日	第97回関東学生陸上競技対校選手権大会／1部／1500メートル決勝	3位
	個人	保坂野恋花	醸造3	5月24～27日	第97回関東学生陸上競技対校選手権大会／1部／1500メートル決勝	準優勝
	団体			10月30日	第36回全日本大学女子駅伝対校選手権大会／仙台・杜の都駅伝／4位	出場
	団体			12月30日	2018全日本大学女子選抜駅伝競走／富士山女子駅伝／6位	出場
ホッケー部女子	個人	村上　冴来	食農1	4月25～29日	ユースオリンピック競技大会アジア予選／日本代表／5位	出場
	団体			11月8～12日	平成30年度秋季女子関東学生ホッケーリーグ／1部	3位
ボクシング部	個人	北浦　龍馬	ビジネス4	8月31日～9月7日	2018世界大学ボクシング選手権大会／バンタム級	優勝
	個人	森坂　嵐	ビジネス4	11月14～18日	第88回全日本ボクシング選手権大会／ライト級／大会4連覇	優勝
	個人	中垣龍汰朗	ビジネス1	8月31日～9月7日	2018世界大学ボクシング選手権大会／フライ級	3位
	個人	片岡亜沙人	ビジネス1	11月14～18日	第88回全日本ボクシング選手権大会／ライトフライ級	3位
	個人	松本　圭佑	ビジネス1	11月14～18日	第88回全日本ボクシング選手権大会／バンタム級	準優勝
	団体			5月12日～7月14日	第71回関東大学ボクシング1部リーグ戦	準優勝
剣道部	団体			10月28日	第66回全日本学生剣道優勝大会／9年連続出場	出場
自動車部	個人	林　夏生	経済3	11月18日	平成30年度全日本学生運転競技選手権大会／女子個人／小型乗用の部	準優勝
レスリング部	団体			5月16～18日	2018年東日本学生レスリング2部リーグ戦	優勝
ボディビル・パワーリフティング部	個人	大石　航平	化学3	8月12日	第45回全日本学生パワーリフティング選手権大会／男子74キロ級	準優勝
	個人	岡野　太郎	経済3	8月12日	第45回全日本学生パワーリフティング選手権大会／男子89キロ級	優勝
社交ダンス研究部	ペア	佐原　安春	森林4	10月7日	第117回東都大学学生競技ダンス選手権大会／ラテンの部／ルンバ	優勝
		荒　奈瑠美	栄養4			
	ペア	藤ヶ崎半平太	化学2	6月24日	第19回皐月杯争奪学生競技ダンス選手権大会／ジュニアスタンダードの部／クイックステップ	準優勝
		林　夕夏	栄養2			
	団体			4月15日	第116回東都大学学生競技ダンス選手権大会／フォーメーション	優勝
全学応援団	団体			通年		感謝状

農友会激励懇親会に各部の代表約140人が参加

農友会活躍たたえ さらに健闘を期待

優秀選手を校友会が表彰

陸上競技部女子の保坂主将

ボクシング部の韓主将

校友会は1月18日、グリーンアカデミーホール（校友会館）で、「第35回東京農業大学農友会激励懇親会」を開いた。平成30年の農友会の活躍をたたえ、次年度もさらに健闘してもらうため、体育・文化団体の部長や監督、主将らを招待、45団体、約140人が参加した。厚木キャンパスの代表も参加した。

国際大会、全日本選手権、全日本学生選手権、関東選手権などで優秀な成績を収めた8団体と個人・ペア21人（別表）を表彰、校友会の外園惣副会長が表彰状と褒賞を授与した。

外園副会長はあいさつで「皆さんの活躍に校友として誇りを感じる。今年も、東京農業大学の名声を高め、社会に広めるような活躍を期待している」と激励。農友会会長の髙野克己学長は「皆さんの活躍は日頃の涙ぐましい苦労、努力があってのこと。苦労が人を育て、クラブ・組織を育てる。スポーツは心身を鍛錬し、自分の限界に挑む経験ができる。この経験は在学時も含め、卒業して社会での成果につながる」と学生らの成長に期待を寄せた。

決意表明で陸上競技部女子・保坂野恋花主将（醸造3）は、「必ず、今年の駅伝で優勝を目指せる強いチームになる」と決意を披露。ボクシング部・韓亮昊主将（ビジネス3）は「部の目標は大学日本一と東京オリンピックへの出場。農大農友会の名を全国、世界にとどろかせよう」と力強く決意を述べた。

最後に、全学応援団の前田大地団長（農3）のリーダーで学歌を斉唱した。

正代関・豊山関を激励
埼玉県支部

校友会埼玉県支部は、大相撲川越場所を翌日に控えた平成30年12月20日、正代関・豊山関激励会を催した。当日は、豊山関が靭帯（じんたい）損傷のけがで冬巡業を欠場したため、正代関と付き人の三段目・朝倉関の参加となった。

学歌を斉唱した後、開会を大河内裕之・川越支部長が行い、外園惣支部長、実行委員長の農大相撲部OB会長・斎藤猛さんがあいさつ。乾杯を秩父支部の吉田廣文支部長が行った。

歓談中、正代関・豊山関の今後の活躍を期待して、正代関に花束と、校友が醸造する酒・秩父錦を贈呈した。正代関は「1月場所の番付が上がった。上位陣との取り組みで、応援していただく皆さんに喜んでもらえる相撲をします」と力強く決意を述べた。

正代関と校友との記念撮影会も行った。宴会が佳境に入ると髙橋睦リーダーの下「青山ほとり」を、校友が栽培したダイコン45本を手に円陣となって「投げ飛ばせ・突き飛ばせ」と、今後の正代関・豊山関の活躍を祈念して参加者全員で踊った。

所沢支部の北田紀久雄副支部長が宴会を締め、秩父支部の半田勝彦幹事長が閉会の言葉を述べた。（埼玉県支部・水澤洋介幹事長）

参加者全員が正代関（前列中央）と記念撮影

支部女性部活発に

総会で校友講師に勉強
群馬県

群馬県支部女子部会は平成30年8月3日、青木旅館（前橋市富士見町赤城山）で平成30年度総会を開いた。14人が出席した。

総会に先立ち、青木旅館を経営する青木泰孝氏（昭47化）による「原発と赤城山について」の講演と、堀口恵子女子部会長（昭47化）によるパワーポイントを使用した「原発の基礎知識」の説明があった。

総会では、堀口部会長が女子部会の活動状況などを説明した後、来賓あいさつで横澤馨群馬県支部長が東京農大と支部の近況などについて報告した。

その後、徳江千代子さん（元東京農業大学栄養科教授）の新刊「間違いだらけの食材保存＆調理術」を参加者全員に贈呈、食品ロスや保存方法など、大変参考になる説明があった。

参加者全員が自己紹介をした後、石黒弘子さん（昭38短栄）の乾杯により昼食。女子部会員の親交を深めることができ、大変有意義な1日となった。

31年の総会も今回と同じく、青木留美さん（昭45短栄）が女将を務める青木旅館で開催する計画を立て、盛会裏に解散した。

講演する青木泰孝氏

タケノコの収穫に汗
神奈川県

神奈川県支部女性部会（梅田ひろ子部会長、昭43短栄）は4月13日、第2回目の部会を開催、加藤恒雄神奈川県支部長（昭47商）の竹林でタケノコ掘りを行った。

女性校友7人と友人、家族の他、加藤支部長、松居靖雄副支部長（昭43院化修）、神田務副支部長（昭45造）、清水圭一幹事長（昭46造）、計15人が参加し、汗を流しながら、おいしそうなタケノコを掘り上げた。

同女性部会は第1回目の部会を30年4月22日に開催。31年2月にはランチミーティングを行い、次年度の活動や会員の増加について話し合った。

タケノコ掘りに汗を流した第2回女性部会

平成30年度支部女性部会開催一覧

支部	開催日	支部	開催日
群　馬	平成30.8.3	兵　庫	平成31.3.10
東　京	平成30.4.21	香　川	平成30.10.21
神奈川	平成30.4.22	福　岡	平成30.11.7
静　岡	平成31.1.26	宮　崎	平成31.2.11
京　都	平成30.11.10		

校友会情報

校友会本部事務局人事

【平成31年4月1日】
常勤理事　小野　甲二
事務局長　安達　哲司

校友会ホームページをご活用ください

校友会のホームページ（HP）では、最新の校友会本部の会議の予定や内容の他、都道府県支部の役員、支部規程、支部総会の開催予定や内容、年度計画、活動報告など各種情報を掲載しています。

支部別のページを設けていますので、支部総会、教職員部会などの職域分会、同期会の開催案内にも活用できます。掲載を希望される場合は、本部にお問い合わせください。情報が届き次第、随時、支部のページを更新します。

住所変更などのご連絡

勤務先の異動・変更などで多くの会員が住所不明となっています。住所変更や改姓をされた場合は、「東京農業大学校友会のしおり」最終ページのはがき「会員名簿変更連絡票」または校友会HPの「会員名簿変更届」でご連絡願います。FAX・メールの場合は下記に。

FAX　03-3427-2271
E-mail　ko3883@nodai.ac.jp

支部総会・教職員部会などにご参加を

都道府県支部では毎年、支部総会や教職員部会、女性部会など、多くの職域部会・分会が開かれています。母校の発展・変貌している姿や運動部の活躍など、農大の近況を知る機会です。ぜひ、参加してみてください。

グリーンアカデミーホール（校友会館）のご利用案内

グリーンアカデミーホール（校友会館）は大学敷地の西端にあり、学生寮に隣接。会館内には、安価でご利用できる休養室（洋室ツイン2室、和室15畳2室）や会議室（大・中）、レストランなどがあります。

卒業生、現役生、学生ご家族のご利用をお待ちしています。校友のご紹介があれば、一般の方々もご利用になれます。予約は6カ月前から。平日午前9時から午後5時まで。電話、FAX、メールで校友会本部にご連絡ください。

5月24日に通常総会

令和元年度通常総会は5月24日（金）、世田谷キャンパスの横井講堂で開かれる。

平成30年度事業報告・決算報告、令和元年度事業計画・収支予算などを審議する。

校友会ブラジル支部 発足50周年祝賀会のご案内

校友会ブラジル支部は今年で発足50周年を迎え、以下の通り祝賀行事を開催します。

7月27日（土）
19:00 前夜祭（サンパウロ市内）
7月28日（日）
9:00 慰霊祭
（サン・ジューダス・タデウ墓地内）
12:00 記念式典（農大会館）
13:00 祝賀会　（　〃　）

お問い合わせ：東京農業大学校友会
☎03-3429-1983
ブラジル支部幹事長　戸国
E-mail：nodai-kai@uol.com.br

話題の図書

写真と史料でみる アジアの在来豚

田中一榮・黒澤弥悦　編著

それは豚か、イノシシか。アジアの在来豚の深層に迫る。

豚はイノシシの家畜化されたものであることはよく知られている。家畜化は1万年前に始まったとされる。現在でも各地で生け捕られたイノシシが容易に飼育され、イノシシと豚の交配による「イノブタ」が存在することからも理解できる。

一般に日々の食肉の中心となる欧米系品種のイメージで語られることが多い「豚」。しかし、アジア各地の辺境域には原種であるイノシシとは判別のつかない在来豚が飼われている。

本書は調査の記録写真と収集史料によって、それらの形態特徴や飼養状況を明らかにし、豚への理解を深めようとする一冊である。

そもそも「ブタになったイノシシ展」が、平成30年10月から31年4月の間、東京農大「食と農」の博物館で開催された。

このユニークな展示のきっかけともなった31年は「亥（い）年」。亥年にちなんで身近な豚への関心をより深めてほしい。

編著者は、田中一榮東京農大名誉教授・黒澤弥悦教授。本体価格3600円、B5判変形カラー・上製。注文は、東京農大出版会へ。
電話 03-5477-2666
FAX 03-5477-2747

会員の動静

慶

平成30年春の叙勲を次の方が受章されました。

▼旦日双光章
京都府支部　井上　剛宏氏（昭44造）
広島県支部　八谷　文策氏（昭41林）
新潟県支部　吉田　和夫氏（昭43経）

▼瑞宝小綬章
群馬県支部　佐藤　和幸氏（昭38農）
篠崎　健司氏（昭43経）
徳島県支部　伊勢　正伸氏（昭46栄管）

▼旦日双光章
岩手県支部　藤尾　東泉氏（昭44畜）
群馬県支部　大谷　直之氏（昭40短醸）
東京都支部　宇田川辰彦氏（昭42造）

▼藍綬褒章
東京都支部　杉田　武信氏（昭41工）
長野県支部　井出　玄明氏（昭39農）

平成30年秋の叙勲・褒章を次の方々が受章されました。

▼旦日小綬章
広島県支部　八谷　文策氏（昭41林）
新潟県支部　吉田　和夫氏（昭43経）

▼瑞宝小綬章
群馬県支部　佐藤　和幸氏（昭38農）
篠崎　健司氏（昭43経）
徳島県支部　伊勢　正伸氏（昭46栄管）

▼旦日双光章
岩手県支部　藤尾　東泉氏（昭44畜）
群馬県支部　大谷　直之氏（昭40短醸）
東京都支部　宇田川辰彦氏（昭42造）

▼藍綬褒章
東京都支部　杉田　武信氏（昭41工）
長野県支部　井出　玄明氏（昭39農）

当選
次の方々が当選されました。

▼道・県議会議員
茨城県支部
平成30年12月9日
村上　典男氏（昭57拓）
4期目
外塚　潔氏（昭58造）
3期目
水柿　一俊氏（昭54工）
2期目
北海道支部
平成31年4月7日
竹内　英順氏（昭57林）
7期目
栃木県支部　4月7日
五月女裕久彦氏（昭50造）
5期目
群馬県支部　4月7日
中澤　丈一氏（昭46経）
8期目
岩上　憲司氏（平7造）
5期目
井田　泉氏（昭60醸）
4期目
埼玉県支部　4月7日
小川真一郎氏（平9経）
3期目
神奈川県支部　4月7日
持田　文男氏（昭48造）
7期目
新潟県支部　4月7日
冨樫　一成氏（平6栄管）
4期目
青木太一郎氏（昭33通農）
7期目
横尾　幸秀氏（昭43工）
4期目
福井県支部　4月7日
清水　智信氏（平16栄栄）
2期目
山梨県支部　4月7日
望月　勝氏（昭43林）
4期目
藤本　好彦氏（平30院経修）
初当選
鳥取県支部　4月7日
広谷　直樹氏（昭50畜）
3期目
語堂　正範氏（平13農）
初当選
岡山県支部　4月7日
渡邉　英気氏（昭56醸）
7期目
徳島県支部　4月7日
寺井　正邇氏（昭45農）
4期目
仁木　啓人氏（平21醸）
初当選
香川県支部　4月7日
齋藤　勝範氏（昭54農）
5期目
愛媛県支部　4月7日
兵頭　竜氏（平11林）
3期目
大政　博文氏（昭59拓）
初当選
新田　泰史氏（平24栄管）
初当選
大分県支部　4月7日
井上　伸史氏（昭44林）
6期目

▼市町村長
高知県支部・室戸市
平成30年11月18日
植田壮一郎氏（昭53農）
初当選
茨城県支部・八千代町
平成31年1月20日
谷中　聰氏（昭58経）
初当選
長野県支部・生坂村1月29日
藤澤　泰彦氏（昭54醸）
4期目
愛知県支部・安城市2月3日
神谷　学氏（昭56拓）
5期目

▼新支部長
次の方々が支部長に就任されました。
新潟県支部
平成30年6月就任
鈴木　和夫氏（昭47工）
富山県支部　8月就任
石坂　均氏（昭45経）
茨城県支部　9月就任
高野　三郎氏（昭43院化修）
長崎県支部　9月就任
田添　利弘氏（昭44経）
福島県支部　11月就任
満山　喜一氏（昭49経）
福井県支部　11月就任
小林　清崇氏（昭46経）
埼玉県支部
平成31年1月就任
吉田　廣文氏（昭47林）
群馬県支部　2月就任
反町　功氏（昭40畜）

弔

次の方々がご逝去されました。謹んでご冥福をお祈り申し上げます。（10月以降、支部などからの報告のみ記載）

横田　善則氏（昭42拓）
パラグアイ支部
平成30年7月13日
川崎　卓氏（昭36工）
新潟県支部　10月
吉村　昌幸氏（昭36農）
鹿児島県支部　10月21日
小泉　勉氏（昭47農）
千葉県支部　10月27日
植村　奨氏（昭27学化）
神奈川県支部　11月6日
三宅　紹資氏（昭34醸）
岡山県支部　11月8日
寺島　拓郎氏（昭31農）
神奈川県支部　11月16日
松田　恵晴氏（昭24専農）
群馬県支部　11月24日
古澤　武氏（昭35農）
新潟県支部　11月28日
仰木　哲夫氏（昭16専農）
福岡県支部　11月29日
池山　清臣氏（昭46拓）
神奈川県支部　12月1日
福浜　満氏（昭43造）
群馬県支部　12月8日
松谷英次郎氏（昭20専化）
兵庫県支部　12月8日
相原　稔氏（昭23専農）
神奈川県支部
平成31年1月14日
平井　昌信氏（昭20専緑土）
神奈川県支部　1月27日
山中　良忠氏（昭30畜）
東京都支部　2月4日
片渕　弘晃氏（昭34工）
佐賀県支部　2月10日
外園　敏子氏（昭42短栄）
埼玉県支部　2月7日
大山　龍一氏（昭44院農博）
茨城県支部　2月11日
木村　正弘氏（昭43農）
神奈川県支部　2月13日
熊野　茂夫氏（昭18専工）
宮城県支部　2月19日
小野　久之氏（昭34工）
佐賀県支部　3月9日
赤地　勝美氏（昭39拓）
群馬県支部　3月12日
冨樫　勇氏（昭25専村経）
秋田県支部　3月16日
小野　虎夫氏（昭37工）
佐賀県支部　3月18日
大島　正敬氏（昭37拓）
ブラジル支部　3月19日
佐藤　正幸氏（昭56経）
秋田県支部　3月25日
尾隠山明宏氏（昭45農）
和歌山県支部　4月2日
檜山　和男氏（昭39農）
茨城県支部　4月9日
中田　久保氏（昭45醸）
東京都支部　4月10日
※福浜満氏は東京農業大学校友会監事、群馬県支部副支部長としてご尽力いただいていました。72歳でした。

校友会功労表彰者
―退任支部長・幹事長―

東京農業大学校友会表彰規程に基づき、支部長および幹事長を通算10年以上勤め、校友会支部活動に顕著な功績を残された次の3人を校友会功労者として表彰することを決めました。

感謝状は令和元年度支部総会で伝達します。

▼茨城県支部
松本正宏氏（昭42経）
支部長　平成19年～平成30年（通算11年間）

▼福井県支部
小林美宏氏（昭42化）
幹事長　平成3年～平成17年
支部長　平成24年～平成30年（通算20年間）

▼沖縄県支部
諸喜田徹氏（平2拓）
幹事長　平成20年～平成30年まで（通算10年間）

農友会活動

体育団体

陸上競技部男子＝強化指定部

第95回東京箱根間往復大学駅伝競走大会（1月2・3日）

7区を力走する田中選手

農大チームは今年も本戦出場を逃したが、予選会で力走した田中健祐（開4）が関東学生連合チームに選出され、小田原―平塚間の第7区に出場。区間10位の健闘を見せた。

校友会神奈川県支部・西湘常磐松会の鈴木美伸会長、鍵和田丈詞幹事長ら校友20数人がのぼり、太鼓、小旗を手に応援した。通過後、沿道の方々にダイコンを配布。参加した校友全員で学歌を斉唱し、来年の出場を祈念した。

全国都道府県対抗男子駅伝競走大会

第24回大会が1月20日、広島・平和記念公園前発着の7区間で争われ、農大陸上競技部から田中健祐が石川県代表で出場。農大OBでは浅岡満憲（日立物流、平27開）が岐阜県代表で出場した。

広島県の校友が大勢駆け付け、田中選手らを応援した。

のぼりや横断幕を掲げ、田中選手に大声援を送る校友ら。校友会広島県支部による都道府県駅伝の応援は5回目。

第69回富士宮駅伝競走（2月10日、静岡県富士宮市）

総合3位、一般の部で準優勝。

1区＝星野元気（ビジネス2）
2区＝小柳周也（経1）
3区＝松坂胆宥（経1）
4区＝盛田和輝（経1）
5区＝川田啓祐（経1）
6区＝尾辻颯（開2）

第72回香川丸亀ハーフマラソン（2月3日）

川田裕也（経3）、山口武（経2）、髙橋健留（開3）が出場。OBでは浅岡満憲が出場した。

箱根目指し新監督 小指氏が就任

陸上競技部男子の監督に、平成30年11月から小指徹（こざす・とおる）氏が就任。興水勝美コーチ（日体大OB）と川尻卓矢コーチ（平24経）の3人体制で、選手らと共に箱根駅伝を目指している。

小指徹・男子監督

小指監督は昭和62年、農大農業経済学科を卒業。在学時は箱根駅伝に4年連続出場、卒業後ダイエー陸上部へ。平成元年びわ湖毎日マラソン優勝、3年東京国際マラソンでは2位、中山竹通、谷口浩美らとともに同年の世界陸上の代表に選出された。10年にSUBARU陸上競技部を創設し、監督、総監督を務めた。

平成30年度農友会表彰式受賞者一覧

			表彰部		氏名・学科
文化団体連合会	農友会功労賞		社交ダンス研究部	ペア	佐原　安春（森4）
					荒　奈瑠美（栄4）
			書道部		齋藤　七海（醸4）
					脇田　怜奈（森4）
	農友会会長賞	団体の部	村の会部		
			管弦楽部		
		個人の部	書道部		高汐　佳歩（化2）
	農友会賞	団体の部	社交ダンス研究部		
		個人の部	社交ダンス研究部		吉見　杏子（バイオ4）
				ペア	前川　紘輝（健4）
					宮坂　萌子（経4）
				ペア	涌井　真澄（健4）
					松下　小春（醸4）
				ペア	佐原　安春（森4）
					荒　奈瑠美（栄4）
			書道部		齋藤　七海（醸4）
					脇田　怜奈（森4）
体育団体連合会	南賞	個人の部	ボクシング部		森坂　嵐（ビジネス4）
	農友会功労賞		ホッケー部		下畝地　洸聖（工4）
					馬場　玲奈（経4）
			ボクシング部		北浦　龍馬（ビジネス4）
					森坂　嵐（ビジネス4）
			ラクロス部		関口　紗生（健4）
	農友会会長賞	団体の部	馬術部		
			自動車部		
		個人の部	相撲部		冨栄　秀喜（森4）
					志賀　裕人（開4）
					佐藤　隆史（工3）
			陸上競技部		保坂　野恋花（醸3）
					棟久　由貴（健3）
			ボクシング部		森坂　嵐（ビジネス4）
					黒柳　禅（ビジネス2）
					片岡　亜沙人（ビジネス1）
					中島　玲（ビジネス1）
					松本　圭佑（ビジネス1）
			自動車部		林　夏生（経3）
			レスリング部		杉山　絢海（ビジネス1）
	農友会賞	団体の部	陸上競技部（女子）		
			ボクシング部		
			レスリング部		
		個人の部	相撲部		有瀬　健人（開1）
			陸上競技部		小山　直城（醸4）
					清水　萌衣（醸4）
					佐藤　有希（健4）
					土田　佳奈（健3）
					村田　享之（経3）
					平賀　奏美（経2）
					柴原　佑紀（栄1）
			ホッケー部		下畝地　洸聖（工4）
					馬場　玲奈（経4）
			ボクシング部		押川　幸輝（ビジネス4）
					韓　亮昊（ビジネス3）
			レスリング部		鬼原　渓（森3）
			少林寺拳法部	組	松永　祐太（森1）
					湯浅　愛梨（栄1）
			フェンシング部		金田　和樹（食農2）
			ラクロス部		関口　紗生（健4）
					漆畑　聡一（ビジネス2）
	農友会新人賞		相撲部		有瀬　健人（開1）
					山内　康（開1）
			陸上競技部		柴原　佑紀（栄1）
					高橋　ひより（森1）
					盛田　和輝（経1）
			ホッケー部		村上　冴来（食農1）
			ボクシング部		片岡　亜沙人（ビジネス1）
					中島　玲（ビジネス1）
					松本　圭佑（ビジネス1）
			レスリング部		杉山　絢海（ビジネス1）
			少林寺拳法部	組	松永　祐太（森1）
					湯浅　愛梨（栄1）
その他	農友会施設使用優秀団体賞	団体の部	文芸部		
			馬術部		

富士山は6位

陸上競技部女子＝強化指定部

2区で静岡県支部校友の声援を受け力走する柴原選手

女子駅伝の底力発揮

全日本大学女子選抜駅伝競走（富士山女子駅伝）が平成30年12月30日、静岡県の富士山本宮浅間大社前―富士総合運動公園陸上競技場の7区間43・4キロに22チームが参加して行われた。

過酷な上りが続いた7区を駆け上がり、6位でゴールする清水選手

昨年2位で優勝候補とも言われた農大は健闘したものの6位。

1区の保坂野恋花（醸3）が7位と好位置で2区の柴原佑紀（栄1）につないだ。柴原は9位に順位を下げ、さらに3区の土田佳奈（健3）が10位で4区の原田紗枝（健4）に。原田は区間6位の走りを見せたが順位は変わらず。最長距離となるエース区間の5区では、佐藤有希（健4）の力走で8位に押し上げた。さらに6区の北川結衣（ビジネス2）が7位に。アンカーの清水萌衣乃（醸4）は上りが続く7区を駆け上がり、順位を上げ6位でゴールした。

沿道の各所には校友会静岡県支部や東京都支部をはじめ全学応援団、陸上競技部OBら校友が多数駆け付け、横断幕を広げ、大声援を送った。

第34回東日本女子駅伝2018（11月11日、福島市）

東日本の18都道府県の代表選抜チームが出場、全9区間合計42・195キロで競った。農大から茨城＝佐藤有希、千葉＝原田紗枝、神奈川＝清水萌衣乃、山梨＝保坂野恋花、新潟＝土田佳奈が出場した。

全国都道府県対抗女子駅伝競走大会

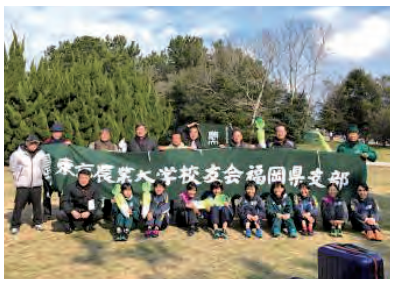
第37回大会が1月13日、京都・西京極陸上競技場発着の9区間で行われ、農大陸上競技部から山梨＝保坂野恋花、新潟＝髙橋ひより（森1）、長崎＝柴原佑紀が出場。農大OBでは飯野摩耶（第一生命、平28経）が山梨県代表で出場した。

日本陸上競技選手権大会クロスカントリー競走

第102回大会が2月23日、福岡市の海の中道海浜公園で開かれ、シニア女子の部に農大から8人が出場した。

18位（学生7位）＝柴原佑来、20位（学生9位）＝清水萌衣乃。

校友会福岡県支部（木部穣支部長）からも応援に駆け付け、声援を送った。＝写真



相模湖駅伝（1月14日）

農大から2チームが出場。

▽Bチーム　優勝
1区＝藤井聖（健1）
2区＝小林愛奈（健1）
3区＝竹内あさひ（醸1）
4区＝大澤由菜（ビジネス1）

▽Aチーム　準優勝
1区＝小川奈々（経3）
2区＝森岡樹生（醸3）
3区＝舘あさひ（経3）
4区＝金森遥（経1）

第69回富士宮駅伝競走（2月10日、静岡県富士宮市）

農大から2チームが出場。

▽Aチーム　女子の部優勝
1区＝柴原佑紀、2区＝土田佳奈、3区＝棟久由貴（健3）、4区＝髙橋ひより、5区＝北川結衣、6区＝保坂野恋花

▽Bチーム　同準優勝
1区＝藤井聖、2区＝大澤由菜、3区＝力武風花（経1）、4区＝小川奈々、5区＝平賀奏美（経2）、6区＝佐藤理子（健2）

第69回全関東八王子夢街道駅伝競走大会（2月10日、東京都八王子市）

大学女子の部で3位。

1区＝館あさひ、2区＝岩本陽香（経2）、3区＝森岡樹生（醸3）、4区＝小林愛奈（醸1）

岡本投手ソフトバンク入団

オホーツク硬式野球部＝強化指定部

2018プロ野球ドラフト会議で福岡ソフトバンクホークスに育成2位指名された岡本直也投手（産経4）らの入団発表が平成30年12月6日、福岡市内で行われた。岡本投手は千葉経済大付属高校出身。

会見で岡本君は「持ち味はカットボールを中心にコントロールで勝負すること。いつか対戦したいのはヤクルトのバレンティン選手。外国人選手と勝負したことがないのでやってみたい」と決意を語った。

ドラフト会議で指名され、チームの仲間と喜ぶ岡本投手（10月25日）

世田谷キャンパス硬式野球部＝強化指定部

東都大学秋季2部リーグ

6勝9敗、勝ち点1で最下位。投手成績では前田剛（経3）が防御率1・82で3位に入った。11月5・7・8日、3部優勝の大正大と入れ替え戦を戦い2勝1敗で2部残留が決定。

NHK杯2位 大学選手権3位

オホーツクカーリング部

全日本ジュニアカーリング選手権大会（11月20～25日、長野県軽井沢町）

女子チームが出場、1勝6敗で7位。

第39回NHK杯（11月23～25日、北見市常呂町）

農大C、D、チームAXELA（男子・部員とOB混成チーム）が出場、AXELAが準優勝。チームAXELAのメンバーは佐藤勝仁（平29産経）、涌井拓郎（平29食香）、足立卓哉（平29食香）、高橋敦穂（食香4）、相田智宏（産生3）、藤田港人（食香2）。

第9回全日本大学カーリング選手権（11月30日～12月2日、北海道妹背牛町）

女子チームが3位入賞。信藤優希（食香4）、小澤茉央（同）、篠崎日香（同）、今野千尋（アクア2）、勝元乃（産生4）が出場した。

NHK杯で準優勝したチームAXELA（中央）

大学選手権での女子チームのデリバリー

アメリカンフットボール部

関東学生リーグ（9月～12月）

今年、2部リーグに昇格し、Bブロックで3勝4敗、勝ち点9で6位。

ボディビル・パワーリフティング部

第19回ジャパンクラシックベンチプレス選手権大会（1月19・20日、大阪府堺市）

83キロ級ジュニアの部に岡野太郎（経3）が出場し準優勝。

ホッケー部

関東学生秋季リーグ（9月1日～11月25日）

男子は1部Aプール4位、順位決定予選で慶應大に勝ったが、5位決定戦で駿河台大に負け1部6位。

女子は1部Bプール2位、順位決定予選で山梨学院大に負けたものの、3位決定戦で早稲田大に勝ち1部3位。

森坂4連覇 OB成松V8

ボクシング部

第88回全日本ボクシング選手権大会 2018（11月14～18日、茨城県「水戸桜ノ牧高校常北校」）

学生9人と卒業生2人が出場。ライト級の森坂嵐（ビジネス4）が大会4連覇を達成した。バンタム級の松本圭佑（ビジネス1）は決勝で惜しくも敗れ準優勝。ライトフライ級では片岡亜沙人（ビジネス1）が3位、ミドル級では中島玲（ビジネス1）が3位。また、フライ級の中垣龍汰朗（ビジネス1）とウエルター級の村上仁（ビジネス3）は5位。

リオ五輪出場、2018アジア大会3位の成松大介（ライトウェルター級、平24経、自衛隊体育学校）は大会8度目の優勝を果たした。

第73回国民体育大会ボクシング競技会（10月4～8日、福井県）

成年男子ミドル級に出場した黒柳禅（栃木県代表、ビジネス2）と中島玲（大阪府代表）が共に3位。

2018年も全日本選手権で活躍した選手たち

黒柳選手㊧と中島選手

文化団体

社交ダンス研究部

第99回理工科系大学学生競技ダンス選手権大会（11月18日、電気通信大学）

団体7位。ジュニアの部ワルツ・6位＝濵野英樹（工1）・佐々木慶乃（森1）組、シニアの部ワルツ・6位＝藤ケ崎半平太（化2）・林夕夏（栄2）組、シニアの部クイック・6位＝雲林院正喜（醸3）・山崎瑠菜（栄3）組。

第13回東都日本学生競技ダンス後期新人戦（11月25日、獨協大学）

団体5位。

第63回全日本学生競技ダンス選手権大会（12月9日、獨協大学）

団体16位。

第41回ツバメ杯争奪学生競技ダンス選手権大会（12月23日、東京工業大学）

濵野英樹・藤松美帆（栄1）組がジュニアモダンの部のワルツで準優勝した。

ツバメ杯で準優勝した濵野・藤松組

講演部

農友会講演部が主催する「第52回農林水産大臣杯争奪全日本学生弁論大会」が12月2日、百周年記念講堂で開催された。統一テーマは「学生が論じる 農林水産業の未来」。平山陽貴（経1）が出場した。

全学応援団吹奏楽部

定期演奏会を開催

平成30年12月27日、ルネこだいら（東京都小平市）で第54回定期演奏会を開いた。農大の学生や教職員、校友の他、近隣住民ら約350人が鑑賞した。

第1部で、祝典のための音楽、「アルルの女」より第二組曲。第2部では、英雄の証「モンスターハンター」より、YouRaiseMeUp、サウス・ランパート・ストリート・パレードなどを演奏した。

第54回定期演奏会

馬術部

第68回全日本学生賞典障害馬術競技会（11月3・4日、山梨県馬術競技場）

団体3位＝鵜飼勇希（造3）、福島ひとみ（食農1）、深水翔平（創成1）、南部七輝（ビジネス2）

第61回全日本学生賞典総合馬術競技（11月6・7日、山梨県馬術競技場）

団体6位

第71回山梨県体育祭り馬術大会（10月20・21日、山梨県馬術競技場）

FEI総合馬術競技2スター馬場馬術競技課目A1位＝鵜飼勇希、3位＝深水翔平▽小障害飛越競技B3位＝木村雄飛（醸3）

FEI総合馬術競技2スター馬場馬術競技課目A1位＝鵜飼勇希、4位＝林大地（経3）▽中障害飛越競技D2位＝福島ひとみ、4位＝鵜飼勇希▽小障害飛越競技B2位＝木村雄飛▽中障害飛越競技C5位＝鵜飼勇希

全日本障害に出場したチーム農大

全日本総合に出場した深水選手

学生選手権団体ベスト8

相撲部＝強化指定部

第96回全国学生相撲選手権大会（11月3・4日、両国国技館）

団体戦Aクラスでベスト8。丸山紘史（開2）山内敬（開4）日下雄斗（工2）松原康太（森4）冨栄秀喜（森4）石川竜司（開3）が出場した。

個人戦では決勝トーナメントに志賀裕人（開4）と冨栄が進み、志賀がベスト16。

第67回全日本相撲選手権大会（12月2日、両国国技館）

冨栄秀喜が出場した。

第8回東日本学生相撲競技会（11月11日、靖国神社）

個人戦で白山征篤（森2）が優勝、ベスト8に加藤聖也（森2）と有瀬健人（開1）。団体戦では農大Bが準優勝。

全国学生選手権大会・団体戦に出場した選手たち

クロカン・リレーで4位

オホーツク競技スキー部

第92回全日本学生スキー選手権大会（1月29～30日、秋田県・仙北市／2月19～23日、長野県・野沢温泉）

《男子1部》

▽総合9位

▽クロスカントリー・リレー（4×7・5キロ）4位入賞

1走＝石山柊平（自然1）、2走＝内田亜汰留（食香4）、3走＝丸山虎之丞（産経2）、4走＝釜石和（産生2）

▽クロスカントリー10キロクラシカル6位入賞＝内田亜汰留、他に石山柊平、長谷川海斗（産経3）、丸山虎之丞、釜石和、山川拓（産経4）が出場。

リレー3走で先頭集団を引っ張る丸山選手

リレー4位と健闘した選手たち

クロスカントリー10キロ6位入賞の内田選手

▽スーパー大回転競技（1月30日）＝鷲澤健（産経4）、富岡恭冴（産経3）、徳武康尊（産経2）、萩生田純宇（産経2）、長倉丈（産経2）が出場。

▽アルペン男子回転＝池田桃太（造園4）、萩生田純宇が出場。

▽ノルディックコンバインド＝宮崎翔太（産経4）が出場。

《女子2部》

▽回転＝五味星空（バイオ2）が出場。

第97回全日本スキー選手権クロスカントリー競技（1月29～31日、長野県・白馬）

男子1・4キロスプリント・フリー、マススタート男子10キロクラシカル、パシュート男子15キロフリーに釜石和、長谷川海斗、石山柊平、寺尾良明（産生2）、丸山虎之丞、鈴木孝昇（産経2）が出場。

第33回全日本学生スキー技術選手権大会（2月2・3日、長野県・白馬）

男子＝石井啓太（工学2）、女子＝五味星空が出場。

第74回国民体育大会冬季大会スキー競技会（2月14～17日、北海道・札幌市）

▽クロスカントリー成年男子Aに釜石和（岩手県代表）、鈴木孝昇（東京都代表）、寺尾良明（愛知県代表）が出場。

▽クロスカントリー・リレー成年男子に釜石和が岩手県チームの1走で、鈴木孝昇が東京都チームの1走で、寺尾良明が愛知県チームの2走で出場。

▽ジャイアントスラローム成年男子Aに富岡恭冴（静岡県代表）、栗山聡（秋田県代表、産生2）が出場。

剣道部

第66回全日本学生剣道優勝大会（10月28日、大阪市中央体育館）

全国392大学の中から地区大会代表64大学が参加し、1回戦で摂南大、2回戦で徳山大に勝利したが、3回戦で慶應義塾大に惜しくも敗れ9位。

ラクロス部

平成30年度関東学生ラクロスリーグ戦

男子は2部リーグBブロックにおいて2勝3敗、4位で2部残留。女子は1部リーグAブロックにおいて1勝1分3敗、5位。2部大東大との入替戦で、14対2で勝利し1部残留。31年度は、男子は1部昇格、女子は関東リーグファイナル4（各ブロック2位以内）を目指している。

〈各選手のうごき〉

男子は、漆畑聡一（ビジネス2）が関東男子ユース（U20）選手に選ばれ、1月にサンディエゴ市への強化遠征に参加。女子は、関口沙生（健4）が30年度も全国強化指定選手に選ばれ、1月には、サンフランシスコでのWorld Crosse2018に参加。19歳以下では日本代表候補になる将来有望な選手も育ってきた。

関東学生リーグ戦で健闘したラクロス部女子チーム

自動車部

全日本学生運転競技選手権大会（11月18日、日通自動車学校）

女子個人・小型乗用の部で林夏生（経3）が準優勝。

準優勝した林選手

空手部

第62回全日本学生空手道選手権大会（11月18日、日本武道館）

男子団体組手トーナメントに出場。

全学応援団チアリーダー部

USA School&College Competition 2018 EAST（8月11日）

大学編成Show Cheer leading部門で4位入賞。

OBの活躍

プロ野球で活躍している東京農業大学OBを応援しよう

選手名(卒年学科)	球　団	ポジション	背番号	出身
松井佑介（平22ビジネス）	中日（平22～）	外野手	56	大阪府
飯田優也（平26産経）	ソフトバンク（平26～）→阪神（平30～）	投手	56	兵庫県
陽川尚将（平26ビジネス）	阪神（平26～）	内野手	55	大阪府
玉井大翔（平27産経）	新日鉄住金→日本ハム（平29～）	投手	54	千葉県
谷川昌希（平27開発）	九州三菱自動車→阪神（平30～）	投手	34	福岡県
風張　連（平27産経）	ヤクルト（平27～）	投手	64	岩手県
井口和朋（平28産経）	日本ハム（平28～）	投手	29	神奈川県
周東佑京（平30産経）	ソフトバンク（平30～）	内野手	23	群馬県
岡本直也（平31産経）	ソフトバンク（平31～）育成	投手	133	千葉県

相撲部　冨栄前主将　時津風部屋に入門

豊山関の化粧廻しで出世披露された時栄

今春卒業した冨栄秀喜さん（平31森）が時津風部屋に入門、5月場所序の口でデビューする。しこ名は時栄（ときさかえ）。

冨栄さんは全国学生相撲選手権大会やアマチュア横綱を決める全日本相撲選手権で活躍した。正代関、豊山関に続き、活躍が期待される。

編集後記

▼今年も3000人を超える卒業生が社会に巣立って行った。多くの困難が待ち受けていると思うが、農大で学んだことを誇りとし、勇敢に挑み続けてと願わずにいられない。卒業後も同期との繋がりを持ち続け、先々で出会う農大の先輩諸氏との交流を大事にしたい。農大校友の絆は、皆さんの挑戦の日々を励ます力になると信じている。本紙もその一助となるような紙面を目指していきたい▼校友会本部の4月人事で事務局長の大任を拝しました。精一杯努力して参りますので何卒ご支援のほど、よろしくお願いいたします。（安達）

編集委員

委員長　小泉　幸道（副会長・名誉教授）
委　員　豊原　秀和（常任理事・名誉教授）
委　員　小畑　幹夫（法人本部総務部長）
委　員　小野　甲二（常勤理事）
委　員　安達　哲司（事務局長）

東京農業大学校友会

実りちゃん　学くん